

2008

溪仁会グループCSRレポート

Corporate Social Responsibility Report



地域とともに
保健・医療・福祉の未来を
見つめて。

Top commitment

溪仁会グループの未来への指針。 2

特集・活動ハイライト

溪仁会が描く未来。

そうさんマスクで子どもたちに笑顔を
手稲溪仁会病院小児NIVセンター開設 7

地域福祉を支えるよりどころとして
介護老人保健施設コミュニティホーム岩内開設 8

生活習慣病の予防をサポート
溪仁会円山クリニックの取り組み 9

生きたシステムとしての活用を
ISO内部監査活動の取り組み 10

マネジメント体制 11

事業理念／サービス憲章／行動基準項目
コンプライアンスマニュアル
溪仁会グループの輪／私たちと皆さまとの関わり

活動報告ー①

患者さま、ご利用者さまとのコミュニケーション
安心と満足の追求 15

活動報告ー②

職員とのコミュニケーション
医療人としてのスキルとマインドの追求 21

活動報告ー③

組織の活性化と自己変革
スキルアップと変革の追求 25

活動報告ー④

地域社会とのコミュニケーション
地域社会からの信頼の追求 27

活動報告ー⑤

より良い職場づくり
ゆとりある職場環境の追求 33

活動報告ー⑥

環境方針と活動報告
環境保全への取り組み 35

溪仁会グループ施設概要 39

溪仁会グループ施設一覧 45

溪仁会グループの歩み 48

第三者意見 49

編集にあたって・編集後記 50

溪仁会グループの 未来への指針。

現代社会に求められる保健・医療・福祉を実現するために、溪仁会グループは何を実現し、どこをめざすべきなのか。

溪仁会グループが担う社会的責任と歩むべき未来の姿について、各病院・組織のトップに意見を聞いた。



溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会理事長
秋野 豊明

座談会出席者



社会福祉法人南静会
理事長
谷内 好



手稲溪仁会病院
院長
松波 己



定山溪病院
院長
中川 翼



西円山病院
院長
峯廻 攻守



司会
大久保 真弓
(フリーアナウンサー)

※本座談会は2008年8月12日、溪仁会グループ法人本部にて開催いたしました。

医療におけるCSRとは

司会 溪仁会グループがCSRによる経営を明確にしてから、3年が経過しました。保健・医療・福祉の担い手としての溪仁会グループが取り組むCSR経営について、一般企業との違いをご説明いただけますか。

秋野 CSR経営を理念の根幹に据えるということは、私どもが果たすべき社

会的責任をメッセージとして意識的に発信するということです。ここ数年、企業の不祥事が相次いだことからリスクマネジメントの必要性が問われ、また利益至上主義の反動から、CSR経営の確立へ、というのが一般企業のケースでした。一方、溪仁会グループの場合は業務そのものが社会貢献であり、あえてCSRを掲げる必要はないという意見もあります。確かに、医療・福祉に携わる者にとって、日々の業務そのものが

社会的責任を果たすことです。しかし、あえてCSR経営を打ち出し、明確にすることによって、溪仁会グループが社会に存在する意義を職員の皆さんに強く認識してもらいたいと考えています。

安心・安全・確実という医療・福祉サービスの質の確保はもちろんですが、地域社会におけるステークホルダーへの責任という面を考えれば、サステナビリティ（持続可能性）は大切な要素です。また、CSR経営を掲げるこ

**溪仁会グループの特徴として顕著なのが、
自分の仕事に誇りを持っている職員が9割以上もいることです。**
(秋野)

とは、日本の社会が直面している環境問題など社会・経済のボトムラインへの対応も重要だというメッセージも含まれています。

司会 コンプライアンスという言葉がよく聞かれるようになりました。法令遵守という意味ですが、福祉や医療には倫理や心の質も大切ですね。

谷内 職員の教育、特に人間性の涵養は大きなテーマです。日々のチームとしての活動のなかで、それぞれの優れている部分や欠けている資質を見極め、教育や研修で補うようにしています。また、福祉の仕事には、人の気持ちを汲む感性も大切です。そうした心の部分や社会常識などは、先輩の姿を手本に学ぶ面も多いと思います。

峯廻 西円山病院には29年前の開院以来、当院のコンプライアンスの原点にもなっている院訓があります。「親切丁寧、常に敬愛の念をもって接しましょう」というものです。当院の理念を目指すには、高いコミュニケーション

ン能力が求められます。溪仁会グループでは多くの研修を取り入れ、コミュニケーションスキルの向上を図っています。患者さまはもとより、ご家族や職員同士など、とりまくすべての人に対して、円滑なコミュニケーション能力を発揮することが、医療の質の確保につながると考えています。

具体的には、職員の意識づくりの一環として、月に1回朝礼を行い、この院訓と病院理念、そして溪仁会グループのサービス憲章を唱和するようにしています。

中川 病院を支えるのは職員の質です。いい人材を確保するには、いかに魅力的な医療を提供しているか、働きがいのある職場環境が整っているか、といった病院のブランド力が決め手になります。また、定山溪病院のような慢性期病院の場合、優秀なだけでなく、人としてのやさしさや温かい気持ちも必要です。医師をはじめ、看護職やリハビリ職など、職員一人ひとりの努力が病院としての魅力となり、さらに、素晴らしい人材が集まってくるのだと思います。

溪仁会グループがCSRに取り組んで3年になりますが、反省や振り返りのよい機会になり、確実に職員の意識は向上しています。日々の業務にもCSRが浸透していることから、こうした取り組みはたいへん有意義だと感じています。

司会 医療や福祉に携わる方々にとってのコンプライアンスとはどのような



ものでしょうか。

秋野 医療や福祉におけるコンプライアンスとは、社会の要請に対して自律的に誠実に応えることと考えています。溪仁会グループでは、CSR経営を支える根幹としてコンプライアンスの実践に真摯に取り組んでいます。2004年から独自のコンプライアンスマニュアルを策定し、教育・啓発活動が続けてきたことで、グループ全体にコンプライアンスが定着してきました。職員一人ひとりが理念を深く理解し、熱心に取り組んできた結果だと思います。

司会 人の質を上げることで組織の質も向上するということですね。組織全体の質の底上げという面では、第三者評価の活用も大きな特徴だと思います。

秋野 病院の第三者評価として最も一般的なのは病院機能評価です。1998年に定山溪病院が認定を受けたのを皮切りに、現在は溪仁会グループの3病院すべてが認定を受けています。また、医療の質を高め、安全性を保証するための手法として第三者による外部評価を取り入れました。2000年

**病院を支えるのは職員の質です。
「全国有数の病院になろう」というのが目標です。**
(中川)



から品質マネジメントシステムであるISO9001を導入。さらに、2004年からは環境マネジメントシステムもスタートしています。このようなマネジメントシステムは、内部監査員の養成を行って、継続的に相互評価を行うことで組織全体に定着してきています。

司会 サービスの質、ということでは、地域との連携も大切な要素だと思います。手稲溪仁会病院では、他の医療機関との連携パス※の運用にも取り組まれていますね。

松波 連携パスは3年前からネットワークの構築を始めました。病院には得意な守備範囲があります。それぞれの得意分野をはっきりさせて、その情報をネットワーク化しました。得意分野を明確にしたことで、医療サービスの質がわかりやすくなり、患者さまには安心して治療に臨んでいただけます。また、連携パスで患者さまの情報を共有し、診療計画を示すことで、急性期病院から回復期のリハビリ病院へ転院しても、スムーズに治療が継続できるようになりました。

現在は「大腿骨頸部骨折連携パス」と「脳卒中連携パス」がスタートしています。当初は手稲地区の医療機関を対象にしていたのですが、たいへん使いやすいシステムであること、低コストで取り組めることなどから提携医療機関が増え、札幌市全体へと広がりを見せています。

※連携パスとは、患者さまやご家族に納得していただいた上で、患者さまの情報を的確かつ効率よく次の関係者に受け渡していくシステムのこと。連携パスの導入により、患者さまは地域内の他の医療機関に紹介された場合でも、一貫した方針の下で治療を受けることができる。

●詳しくは31ページをご覧ください。

ステークホルダーとの かかわり

司会 ステークホルダーとのコミュニケーションについてうかがいます。地方での施設運営も展開する南静会では、どのような取り組みをされているのでしょうか。

谷内 札幌市のような都市部と地方では、求められる福祉サービスの性格が異なってきます。八雲、美唄、岩内の3施設は、地域の行政機関や福祉サービスに携わる同業の方々と連携しつつ、セーフティーネットとしての機能も果たすことになります。一方、多くの施設が存在する札幌市では、「選ばれるためのサービス」が重要になります。地域からの期待を裏切らないこと、そして期待以上のサービスを創造すること。これらを誠実に果たすことで、利用者さまやご家族にも満足していただけるのでは、と考えています。

峯廻 病院の中長期計画のなかで、ステークホルダーとして最も重視しているのが職員です。当院ではES（職員満足度）調査を定期的に実施しています。また、職員からの改善提案を寄せてもらう投書箱を設置して、常に職員の声に耳を傾けています。

職員へのケアと同時に重視しているのが、患者さまへの対応、特に人権の確保です。患者さまやご家族のニーズを把握するために、職員と同様に投書箱の設置や満足度調査を行い、その結果は毎年公開しています。また、当院に対する理解を深めてもらい、交流を図るための取り組みとして「患者家族の会」があります。年に一度行われる交流会では、当院の活動内容や現状をご家族に説明しています。

中川 当院でも、患者さまのご家族と、職員へのアンケートをそれぞれ実施しています。ここで目を向けなければならないのが、職員アンケートの結果です。2007年の10月に実施した調査では、「自分の仕事にはりあい（充実感）を感じることはありますか」という問いに対して、ポジティブな回答をした職員が、ネガティブな回答の3.3倍もいました。「あなたは今後とも当院で働きたいと思いませんか」という問いには、ポジティブが4.6倍。多くの職員がやりがいを持って仕事に臨んでいることがうかがえます。ところが、「総合的に考えて職場に満足ですか」という問いは、ポジティブな答えがネガティブの半数でした。給与や仕事量、職員数が不満の主な理由です。





「親切丁寧、敬愛の念をもって接しましょう」
この院訓と病院理念、溪仁会グループのサービス憲章を、
月一回の朝礼で唱和しています。
(峯廻)

りも、私たちの役割です。溪仁会グループの特徴として顕著なのが、自分の仕事に誇りを持っている職員が9割以上もいること。これは一般企業よりずっと高い数字です。これが職員の自主性や創造性を高める基盤になっています。一方で、待遇面への満足度が低いことも認識しています。今の日本の医療制度のもとにおける厳しい経営環境では待遇の改善には限界がありますが、北海道の多くの医療機関が赤字を抱えるなか、溪仁会グループの各施設ではさまざまな経営努力を行いながら改善に努めています。有給休暇の消化促進もその一つです。

谷内 福祉の現場でも、職員の疲弊がよく問題になります。確かにマンパワー頼りの仕事ですから、職員にかかる負担は大きいと思います。しかし、介護にかかわる仕事の楽しさを学び、専門性をより深めていくことで、働く喜びを得られるのではないかと考えています。課題は、ますます厳しくなる介護保険制度の枠組みのなかで、いかに待遇面を向上させるか。難しい問題ですが、なんとか職員の努力が報われるような環境を実現できたら、と考えています。

溪仁会グループが めざす未来

司会 これから溪仁会グループがめざす医療や福祉、病院の未来についてうかがいます。松波先生、急性期病

院としての手稲溪仁会病院の目標をお聞かせください。

松波 当院が一番に掲げているのが、全国トップレベルの患者満足度をめざすということです。これは同時に、職員も含めた満足度も意味しています。

当院のような地域医療を担う総合病院は、医療の質がどこよりも優れていなければならない。それも25科すべてにおいてです。また、当院ではドクターヘリの運航など、北国の救急医療を担っています。そうした特殊な救急医療を突き詰めていく必要もあります。総合的にトップレベルの医療を実現できれば、職員も当院で働くやりがいやプライドといった面ではきっと満足してくれるはずだと思います。

一方、職員の待遇面の向上ですが、現状の制度上ではなかなか難しい。これを改善するには、質の高い医療を提供することが、患者さまの満足度につながるということを訴え続けていく必要があります。当院ではトータル・クオ

このアンケートをもとに、有給休暇の消化や時間外勤務を減らす取り組みを進めています。

松波 職員の満足なくしては、患者さまの満足は実現なしというのが定説です。患者さまにとっての最大の満足は、当院のすべての科が標準以上の医療を提供することです。しかし、患者さまにとっての満足が職員の満足に必ずしもつながらない、というのが悩みどころです。

当院の職員は、当院で働くことに高いプライドと職業意識を持っています。ところが総合的な満足度は低い。仕事にはやりがいを感じているが、勤務状況や待遇面などには不満がある。私は、いつか当院の近くに誰もが気軽に集えるサロンをつくって、お茶をしたり、スポーツをしたり、地域の人も交流できるようになったらいい、と考えています。人には笑われるかもしれませんが、夢では終わらせたくない。そんな場所ができれば、きっと職員の満足度も上がるのでは、と考えています。

秋野 職員が自主性や創造性を発揮できる、あるいは涵養できる環境づく

誰もが気軽に集えるサロンをつくって、
お茶をしたり、スポーツをしたり、
地域の人も交流できるようになったらいいと考えています。
(松波)



地域からの期待を裏切らないこと、期待以上の
サービスを創造すること。
これらを誠実に果たしていきます。
(谷内)

リティ・マネジメント（継続的に経営や業務の質を向上させるための手法のこと）の確立を急いでいます。それによって情報やデータを収集し、高度な医療の必要性や有用性を外に向けて発信したいと考えています。

中川 病院の性格は将来、急性期と慢性期に大きく分かれていくと考えています。急性期というのは手稲溪仁会病院のような病院で、全国で約30万床程度。一方、慢性期医療には一般病院が行っているような回復期リハビリなども含まれるようになり、病床数は90万床程度になるでしょう。多くの病院が慢性期医療の世界に参入してくるため、非常に大きな競争が生まれると予想しています。当然ですが、患者さまに選ばれるためには、上質な慢性期医療を提供する必要があります。これは前から言い続けていることですが、「全国有数の病院になろう」というのが目標です。

当院は、患者さまのご家族からの紹介がとて多く、口コミによる入院が約半数を占めています。これからも、親切・丁寧かつ安心できる医療・看護・リハビリテーション等を提供することで、優れた病院であることと経営の安定化の両立を図りたいと考えています。

峯廻 CSRを病院に当てはめるときには、CをHに置き換えて、Hospital Social Responsibilityと考えると理解しやすくなります。病院というのはそもそもが社会貢献をする組織です。そ

こで一番大切なステークホルダーは、組織を支える職員です。しかし、職員への満足度アンケートからは、「仕事に誇りを持っているが、満足はしていない」という実情が垣間見えます。これは、本来は社会共通資本である医療に、市場原理が介入してきていることが背景にあるといえます。

では、そうした厳しい情勢のなかでどうやって病院経営を持続させていくか。エビデンス・ベイスト・メディスン※という言葉があります。科学的知見に基づいた医療のことですが、当院では日常の診療を通じて患者さんに対するデータを蓄積し、科学的根拠となるエビデンスを構築することを重視しています。そして、そのエビデンスを根拠に、質の高い医療の必要性を社会に向けて発信し、医療制度の充実を実現する。それが医療のCSRやコンプライアンスの理念に基づく私たちの使命である、と考えています。

谷内 南静会は介護事業に特化した社会福祉法人です。しっかりとした経営基盤を築くためにも、さらに各施設がブラッシュアップを行うことが大切だと考えています。

当法人は医療法人の溪仁会と強く連携しているということも、高く評価されています。その強みを生かしつつ、ネットワークを広げていくことがこれからの軸になると思います。また、グループとしての事業の再編などについても内部で協議しつつ、さらに効率よく質の高



いサービスを提供できるように努力していく考えです。

秋野 今は時代の大きな転換期であり、一つの時代の区切りであると認識しています。今まで我が国を支えてきた官主導の社会システムは制度疲労を起こして、時代の要請に対応できなくなってきました。したがって、社会的にも、官から民への流れが強まり、民間の役割が重視されるようになっていきます。これからは、民間のサービス提供者は何ができるのか、どういった役割を果たせるのかが問われることになります。

溪仁会グループのような民間の医療・福祉の担い手を中心となって、これからの日本の医療・福祉を牽引していくと考えれば、その未来は決して暗くはなく明るい展望があります。そのような大きな役割を担っていけるように、私たち溪仁会グループはもっと力を養っていく必要があります。日本一の事業体として高品質なサービスをめざし、いいモデルを提示すること。それが未来における溪仁会グループの役割であり使命と考えています。

※エビデンス・ベイスト・メディスンとは、その患者さまにとって最も有効な手段を見極めるため、患者さまのデータを客観的に分析し、そこから得られた科学的な根拠に基づいて、診断や治療法などを選択する医療のこと。

溪仁会が描く未来。

溪仁会グループは、地域のみなさまに愛され、信頼される組織をめざしています。社会的責任や使命を果たし、より良い保健・医療・福祉を実現するために、未来を見すえ、地域に貢献する活動を続けています。

そうさんマスクで子どもたちに笑顔を

手稲溪仁会病院小児NIVセンター開設

呼吸器疾患を抱える小さなお子さんの体に負担をかけず、生活の質を維持したまま呼吸を確保する治療法があります。手稲溪仁会病院は「お子さんの笑顔のある治療」をめざし、新しい治療法の充実と普及に取り組んでいます。

全国でも数少ない小児NIVへの取り組み

入院を伴う小さいお子さんの多くが、呼吸不全を引き起こす可能性のある肺炎や気管支炎、ぜんそく発作といった呼吸器疾患を抱えています。この治療に欠かれないのが人工呼吸器による呼吸療法ですが、体への負担が大きく、発声や食事、行動範囲の制限など、生活の質が損なわれることが課題でした。

お子さんの生活の質を維持するため、手稲溪仁会病院では「非侵襲的換気療法（Noninvasive ventilation）」、通称「NIV」という呼吸療法に2006年夏から取り組んできました。これは必要に応じてマスクを装着し、空気を送り込む治療法で、成人には標準的な治療として用いられていますが、小さなお子さんはマスクを嫌がって外してしまうことなどから普及が進まず、導入している医療機関は全国でもわずかでした。

手稲溪仁会病院では、さらなる小児NIVのケア充実をめざし、2008年4月に専用の「小児NIVセンター」を開設。専任の医師と看護師、理学療法士がケアにあたっています。

笑顔のあるケアそうさんマスクの普及を

小児NIVに用いるマスクは、鼻だけを覆うタイプです。空気を送るホースが長い鼻のように見えることから、“そうさんマスク”と呼ばれています。小児NIVセンターではお子さんがマスクに親しみを持てるように、固定バンドを明るい色に変えたり、動物のワッペンを貼ったりといった工夫をしています。

在宅でのケアのサポートも、力を入れている取り組みの一つです。ご家族向けのマニュアルの作成や定期的

な往診によって在宅ケアの環境を整え、できるだけ自宅で過ごす時間を増やしてあげることで、それがお子さんにとって最善の治療になるからです。



こうした小児NIVの取り組みがあることは、ほとんど知られていません。導入を推進するには、まずはその存在を広く知ってもらう必要があります。そのために、小児NIVセンターでは情報発信にも積極的に取り組んでいます。



VOICE

手稲溪仁会 小児NIVセンター
センター長 土島智幸



子どもの生活の質を守る 小児NIVの普及をめざして

気管切開をするしかない、という子どもの多くが、実はNIVでの治療が可能だとわかってきました。NIVであれば、不要な気管切開や気管内挿管を減らし、子どもの生活の質を維持することができます。また、自宅でのケアも可能になり、就学へのハードルも低くなります。NIVを必要とする子どもは、全国で何千人にも上るはずですが、有益な治療法として、これからは全国に普及していくでしょう。小児NIVの認知度を高めることによって、少しでも導入が進むように、当センターでは努力を続けています。

地域福祉を支えるよりどころとして

介護老人保健施設コミュニティホーム岩内開設

高齢化が進む地方では、医療や福祉の充実が必要とされる一方、施設不足などから、サービスの空洞化が生じています。南静会では地方都市からの要請に応え、地域に密着した福祉施設の運営にも尽力しています。

個室のユニットケアで自宅のような安らぎを

岩内町からの要望を受け、2007年4月、日本海を見渡す野東地区の一角に介護老人保健施設コミュニティホーム岩内が誕生しました。入所定員は100名。入所サービスのほかに、短期入所療養介護（ショートステイ）と通所リハビリテーション（デイケア）も行っています。医師である施設長や看護師をはじめ、リハビリスタッフ、ケアワーカーなどが、利用者さまと入居者さまの生活をお手伝いしています。

コミュニティホーム岩内の特徴は、居室すべてが個室であるということ。居室では自由な過ごし方ができ、ご家族が泊まることも可能です。プライバシーを尊重すると同時に、生活は10人単位で暮らすユニットケアを導入しているため、仲間同士でのコミュニケーションが生まれ、各ユニット専属の看護師とケアワーカーが、まるで家族のようなきめ細かなケアを行っています。



西後志地区の拠点として福祉サービスを支える

岩内町を中心とする西後志地区では高齢化が急速に進み、一人暮らしのお年寄りや、お年寄りがお年寄りを介護する世帯が増えていました。しかし、岩内町周辺にはお年寄りの生活を支援する施設が少なく、地域に根ざした高齢者福祉のニーズが高まっていました。コミュニティホーム岩内が開設されたことで、多くの福祉サービスをご利用いただけるようになり、ご家族の不安や悩みの解消にもつながっています。

コミュニティホーム岩内は、地域における福祉サービスの拠点としての役割も担っています。地方においても、質の高い福祉サービスを実現できるように。入居者さまやそのご家族と手を取り合いながら、地域特性も考慮した最適なケアをめざしています。

VOICE

介護老人保健施設 コミュニティホーム岩内
看護部長 渡邊節



みなさまの声を聞きつつ きめ細かなケアを

コミュニティホーム岩内は、岩宇地区（岩内郡と古宇郡）における高齢者福祉の充実、という大きな期待を背負って開設されました。当施設では、家族のような温もりのあるケアを目標としています。スタッフ数も同じ規模の施設に比べて多く、各ユニットごとに専属の看護師とケアワーカーを計5名ずつ配置しています。これからは、入居者さまやご家族の声を聞きながら、みなさまのご要望にお応えできるようなサービスに近づけたいと考えています。

生活習慣病の予防をサポート

溪仁会円山クリニックの取り組み

2008年4月より40歳から74歳を対象とした特定健診と特定保健指導が義務づけられました。新制度に先駆けて、生活習慣病の予防などに取り組んできた溪仁会円山クリニックの活動を紹介します。

早期発見と指導で生活習慣病を予防

溪仁会円山クリニックは1990年の開設以来、病気の早期発見や健康管理に主眼を置いた健診事業に取り組んできました。2008年4月から始まった特定健診・特定保健指導では、これまで培ってきたノウハウを生かし、充実したサポートを行っています。

特定健診は、40歳から74歳の方を対象に実施される、糖尿病や高血圧症などの生活習慣病に関する健康診査です。病気の早期発見や早期治療を主目的とした従来の健診と違い、「病気のもとを要注意段階で改善しよう」というのが狙いのため、主に内臓脂肪の蓄積が発症の要因となるメタボリックシンドロームの予防と具体的な保健指導（特定保健指導）を重視しています。溪仁会円山クリニックは、医師のほかに、保健指導や栄養指導などを担当する専門のスタッフが、一人ひとりに合わせた生活習慣改善のためのプログラムを作成し、継続的に支援。日常生活で実践できる具体的な指導を行っています。



自分の健康状態を把握これからの健診の役割

溪仁会円山クリニックの特長は、併設施設での運動プログラムの実施や、手稲溪仁会病院と提携した質の高い医療体制。また、全身をトータルでチェックすることができ、オプションで骨粗しょう症検査や各種がん検査、各種婦人科検査などを組み入れることも可能です。特定健診が義務づけられたことで、病気は治療するものから防ぐものへと、社会的な意識も少しずつ変

化してきました。これからは、ますます健診の重要性が高まると予想されます。健やかな生活をサポートするための総合健診機関として、地域での保健指導や企業と提携したアドバイス事業など、社会ニーズをとらえた活動に取り組んでいます。



VOICE

溪仁会円山クリニック
院長 道家 充



健診をもっと身近なものに 新しいサービスの創出も

特定健診制度の導入は、健診の必要性や意味を考えるきっかけになり、健診のすそ野が広がったと言えます。何よりも大切なのは、健診を受けることよりも、そこで異常が見つかった場合にどう対処するかです。当クリニックでは、ご希望に応じて相談や指導を行っています。病気の治療と違い、食習慣や生活リズムなどの改善は見逃しがちですが、何よりも早い取り組みがカギになります。当クリニックのメリットは、全身の状態をくまなくチェックできること。健診事業に特化した医療機関として、これからはより身近で多くの方に利用していただける健診サービスや、日常生活で継続的に実践できる生活指導なども提供したいと考えています。

生きたシステムとしての活用を

ISO内部監査活動の取り組み

溪仁会グループは、各マネジメントシステムの維持に向けグループ独自の内部監査制度を実施しています。それぞれのシステムを有効に機能させるために、職員一人ひとりの意識向上にも取り組んでいます。

ISOの効果的な運用を図る 充実した内部監査活動

溪仁会グループでは現在、グループ全体で品質マネジメントシステム（ISO9001）および環境マネジメントシステム（ISO14001）の審査登録を行っています。こうしたマネジメントシステムの運用において重視されるのが、内部監査制度です。

ISOのマネジメントシステムを組織活動において有効に機能させるためには、職員が自ら維持・発展させていく必要があります。それには内部監査制度の充実と内部監査員の養成が要となります。

内部監査では自ら決めた仕事のルールが各部署で標準化され、かつ適正に実践されているか、といったことを定期的にチェックしています。内部監査員として認定された職員が、客観的視点から他部署の評価を行い、問題点があれば改善に向けての原因分析や再発防止への取り組みが行われます。

こうした内部監査は年に1、2回実施され、継続的に自分たちの業務を見直すことで、最良な医療・福祉サービスの提供にも効果を上げています。

職員からも関心の高い内部監査員養成研修会

溪仁会グループは、最初にISO9001への審査登録をめざした1999年から内部監査員の養成に取り組んできました。当初は外部コンサルタントの研修制度を活用しリーダー層の育成を図っていましたが、5年程前より、独自に講師陣を編成し、教育教材を見直し、新任者養成研修会を実施し、ボトムアップを図っています。

現在、内部監査員はグループ全体でISO9001が519名、ISO14001が256名（2008年9月現在）となっており、延べ人数は全職員の2割以上に上ります。参加職員の意識も高く、ISO内部監査の意味と重要性を正しく認識し、各施設での活動に臨んでいます。

当グループの各病院では病院機能評価の認定を受けていますが、更新までの期間（5年間）継続的に医

療の質の維持や改善を図るためにも有効なツールとして、これからもこうした内部監査活動を充実させていきます。



VOICE

手稲溪仁会病院経営管理部 総務課 課長
JRCA登録QMS審査員 松田 宏二

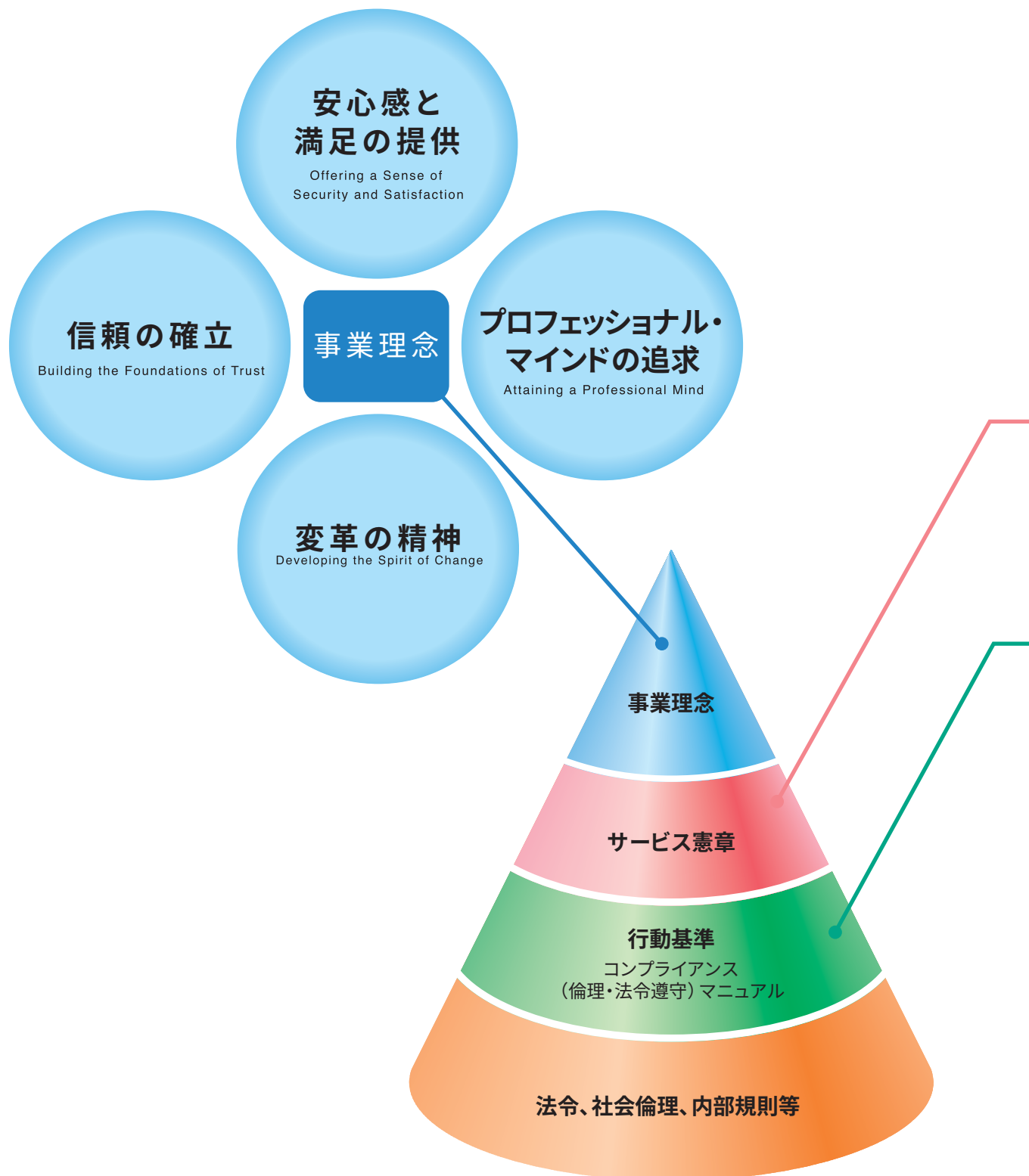


効果的な内部監査のために スキルの向上も重視

溪仁会グループでは、10年にわたってISOマネジメントシステムの内部監査員養成を行ってきました。これだけ多くの内部監査員がいる組織は珍しいのでは、と自負しています。現在はマネジメントシステムが組織全体に浸透し、各施設でも内部監査の重要性を認識するようになりました。マネジメントシステムの形が変化を防ぎ、さらに有効に機能させるためにも、これからは中堅職員へのスキルアップ講習などにも取り組む必要があると考えています。

誠実な組織のもとで、 より良いサービスを提供するために。

溪仁会グループは事業の基本方針として「事業理念」と「サービス憲章」を制定しています。その精神の実現にむけて、すべての職員が遵守すべき行動の基本的な心構えを「行動基準」としてまとめ、「コンプライアンス（倫理・法令遵守）マニュアル」を策定しています。



サービス憲章

私たちは、質が高く効率的なサービスを提供するため、グループの総力を挙げ（グループ連携）、地域の関係機関との連携を密にし（地域連携）、他の関連事業との提携を展開し（業務提携）、患者様・ご利用者様との協同活動を通じて、満足度の高い保健・医療・福祉サービスを目指します。そのために、

1 私たちは、患者様やご利用者様にとって最高の満足度を追求します。……▶	顧客満足
2 私たちは、最高のサービス品質を追求します。……▶	品質管理
3 私たちは、人権と倫理を尊重したサービスを提供します。……▶	人権尊重
4 私たちは、地域社会の一員として遵法を徹底します。……▶	遵法精神
5 私たちは、常に技術の向上と革新に努めます。……▶	技術変革
6 私たちは、日々研鑽に励み、人格と知識の向上に努力します。……▶	教育研修
7 私たちは、職種を越えたチーム活動に徹します。……▶	チームワーク
8 私たちは、サービス提供に関わる情報を公開します。……▶	情報公開
9 私たちは、各機関との地域連携を重視し地域に根ざすサービスを供給します。……▶	地域重視
10 私たちは、環境を保護するためにあらゆる配慮を尽くします。……▶	環境保護
11 私たちは、お互いを尊重し、ゆとりある職場環境を追求します。……▶	職場環境

コンプライアンスマニュアル

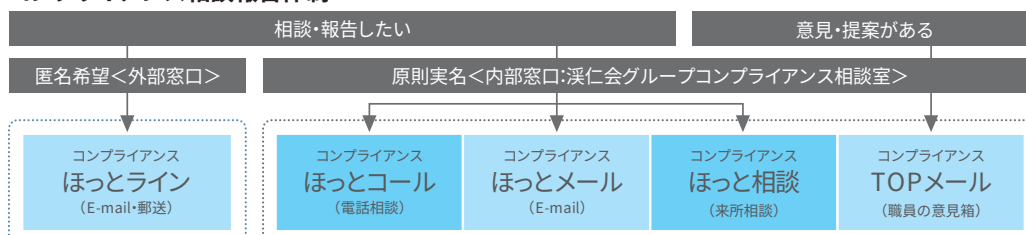
「コンプライアンスマニュアル」のなかでは、「サービス憲章」の11項目に対応した行動基準が策定されています。それぞれの項目では、その「目的」や「リスク」、「関連法規など」にも触れ、総合的に理解できるよう編集しています。



コンプライアンス相談報告体制の充実

浜仁会グループは、患者さま・ご利用者さまに、安全で満足できるサービスを提供し、社会から信頼される病院や施設づくりを行うために、コンプライアンス活動を推進しています。その一環として、グループ内に広く存在する問題を受け止め、積極的に解決していくために「コンプライアンス体制」を整備。グループ職員を対象とした相談報告窓口「コンプライアンス相談室」や、第三者機関による「ほっとライン」を設置し、改善を図っています。

コンプライアンス相談報告体制



溪仁会グループの輪

1979年の創設以来、私たちは地域の皆さまの保健・医療・福祉をサポートしてまいりました。現在は札幌市を中心に、医療法人・社会福祉法人・福祉サービス会社などの4法人を運営し、保健・医療・福祉を相互に連携させながら、求められる最良のサービスを提供しています。



● 構成組織 ●

医療法人 溪仁会
社会福祉法人 南静会
株式会社ソーシャル
株式会社ハーティワークス

● 代表者 ●

グループ最高責任者
医療法人溪仁会理事長
秋野 豊明

ミッション

保健・医療・福祉の各サービスをシームレスに提供し、地域住民の生涯に亘るニーズに応え支援を行う。

私たちと皆さまとの関わり

溪仁会グループは、さまざまな方々との関わりのなかで活動しています。
地域の皆さまや医療機関、自治体などとも協力しながら、ご利用者さまに
保健・医療・福祉サービスの提供を、
職員には自己実現できる働きがいのある職場を提供しています。
また、大学などの教育機関と共同で教育・研究を進め、地球環境にも配慮した活動に努めるなど、
さまざまなステークホルダーのニーズにお応えしています。





活動報告－①

安心と満足の追求

活動の基本となるサービス憲章

- 私たちは、患者様やご利用者様にとって最高の満足度を追求します。
- 私たちは、最高のサービス品質を追求します。
- 私たちは、人権と倫理を尊重したサービスを提供します。

※サービス憲章の全項目は12ページに掲載しています。



信頼され、愛される組織であるために

溪仁会グループの事業理念は、“良質な保健・医療・福祉サービスの提供”という社会的責任を遂行するために制定されています。そして、その実現のための具体的な取り組みは、すべての職員が守るべき行動指針であるサービス憲章に基づいています。

ここでは、『安心感と満足の提供』という事業理念に基づいた、患者さま、ご利用者さまとのコミュニケーション活動を中心にご紹介いたします。みなさまに最高の満足度、最高の品質、安心と安全を提供するための溪仁会グループの取り組みです。

最高の満足をお約束するために

溪仁会グループの各病院・各事業所では、投書箱の設置やアンケート調査を行い、その結果を医療や福祉サービスの改善に役立てています。
お寄せいただくご意見やご要望は、たいへん貴重なご指摘として真摯に耳を傾け、多くの方に満足していただける組織づくりに努めています。

投書箱の設置

みなさまからご意見やご要望をお寄せいただくために活用されているのが「投書箱」です。患者さまやご利用者さま、ご家族がいつでもご利用いただけるように、各病院や施設内のわかりやすい場所に常時設置しています。いただいたご意見は定期的に集計した上で協議・検討を行い、具体的な対策を講じるなど、業務の改善に役立てています。また、一部のご質問・ご要望については回答とともに掲示し、広くご紹介しています。

最近のご批判ばかりではなく、感謝のお言葉もいただけるようになりました。これからもみなさまからのご意見をもとに、より満足度の高いサービス提供をめざします。



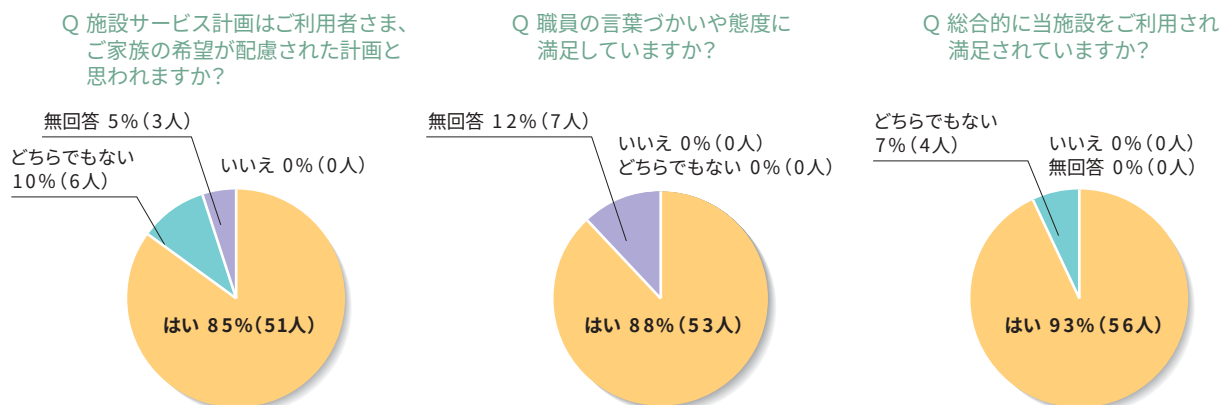
家族会アンケートー西円山敬樹園

ご利用者さまやご家族のニーズを把握するために、定期的実施しているのがアンケートによる満足度調査です。各病院・事業所では、そうしたアンケート調査の結果をもとに、提供するサービスの見直しを図っています。また、結果を公表することで、溪仁会グループの課題や取り組みを明らかにし、みなさまに支持される施設運営に努めています。

介護老人福祉施設・西円山敬樹園では、2008年6月

にご利用者さまのご家族を対象にしたアンケート調査を実施。120名のご家族にご協力をお願いし、60名、50%の方から回答をいただきました。傾向としては施設サービスへの満足度がたいへん高く、評価いただいているという結果でした。また、自由回答でいただいたご意見はたいへん貴重なものとして、施設運営の改善に活用させていただいています。

■西円山敬樹園ご利用者ご家族様アンケート調査結果



寄せられたご意見の一部

- カンファレンスが定期的にあるとうれしい。
- 家族とのふれあいの場（レンタルルームなど）があればいい。
- 居室の担当者や職員の名前がわかるようにしてほしい。
- 10年以上入所しているが、いつも変わることなく接してくれている。安心してお願いしているし、知人にも紹介したい。

2 最高のサービス品質をめざして

溪仁会グループでは、提供する保健・医療・福祉のサービスが高品質であることはもちろん、社会的なニーズをとらえた新しいサービスの創出にも取り組み、みなさまに喜んでいただくための努力を続けています。

シャワー浴の導入ー西円山病院

入院患者さまの楽しみの一つが、リラックスできる入浴の時間です。ところが高齢の患者さまや、障がいを持たれている患者さまのなかには、ゆっくり浴槽につかって入浴することが難しい、という方もいらっしゃいます。



より多くの患者さまに入浴を気軽に楽しんでいただくために、西円山病院では、2007年11月にシャワー浴を導入しました。シャワー浴はカプセル状の浴槽の中で、霧状のシャワーが包みこむようにして体を暖めるため、寝た状態や座った姿勢でも入浴できるのが特徴です。

湯船につかる入浴方法よりも心臓への負担が少なく、疲れにくい、というメリットもあります。西円山病院では、患者さまが仰向けに寝たまゝの状態で使用できるタイプを3台、半身浴も可能な座るタイプを1台導入しました。このシャワー浴の導入にあたって、それまで浴室のなかった病棟にも浴室を4カ所新設したことで、移動時間が短くなり、患者さまの入浴時間をより長くとることができるようになりました。



高速道路でのドクターヘリ運用訓練

ドクターヘリは、消防機関等の要請を受けて速やかに救急現場へ出動し、医師、看護師による初期治療の開始時間を短縮するとともに、傷病者を迅速に医療機関へ搬送することを目的とした救急医療専用ヘリコプターです。手稲溪仁会病院は、ドクターヘリの基地病院として、北海道における最新の救急医療に取り組んでいます。

2007年9月に高速道路上での交通事故などに対するドクターヘリの運用が開始されたことを受け、同年11月、道央自動車道上り線（札幌方向）の岩見沢サービ

スエリア内ヘリポートで運用訓練を実施しました。訓練には基地病院である手稲溪仁会病院をはじめ、関係機関が参加。事故現場から傷病者を救出してヘリに搬入するまでの過程をシミュレーションし、関係機関の通信体制や連携方法などについて確認を行いました。広域な北海道において、一人でも多くの患者さまを救うために、迅速かつ正確な救急医療の実現に、こうした訓練が役立っています。



タリーズコーヒーオープン－手稲溪仁会病院

ここ数年、病院は診療の場としてだけでなく、さまざまな機能を持つコミュニティスペースとしての役割も期待されるようになってきました。病院を訪れる方々に安らぎを与え、少しでもリラックスしていただけるよう、溪仁会グループでは新しいサービスの導入に取り組んでいます。

その一例が、2008年2月に手稲溪仁会病院内にオープンした「タリーズコーヒー」です。1階エントランスホールにあった喫茶スペースを、若者に人気のあるコーヒーショップにリニューアルしました。北海道内では9店舗目、病院内出店としては道内初ということで、注目を集めています。朝7時30分から開店していることもあり、職員からも「朝からおいしいコーヒーが飲める」と好評

です。待ち時間の合間に、お見舞いの際の談笑の場に、いれたてのコーヒーが活躍しています。



ISO9001(JISQ9001)

溪仁会グループでは、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の審査登録をグループ全体で行っています。こうしたマネジメントシステムを活用することにより、当グループが提供する保健・医療・福祉サービスの質を保ち、またシステム維持に向けた努力を内部でも継続的に行うことで、組織全体に根付かせることが目的です。こうした第三者機関による裏付けを活用しているのも、溪仁会グループの大きな特徴といえます。



ISO9001マネジメントシステム登録証

病院機能評価

財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価は、医療機関の質を評価し、一定の水準を満たしていることを認定する、医療に特化した第三者評価制度です。溪仁会グループでは、1998年に定山溪病院が長期療養種別において日本で第1号の認定を受けたことに始まり、2005年に手稲溪仁会病院、2007年には西円山病院が認定を受け、現在はすべての病院が一定以上の水準であると認められています。



定山溪病院認定証

3 人権と倫理を守るために

個人の尊厳やモラルを守ることは、すべてのサービスの基本です。

患者さま、ご利用者さまには安心で安全なサービスを。

地域のみなさまには、安心して暮らせる環境を。

溪仁会グループは人権と倫理を尊重する組織として、信頼に応えるための活動を続けています。

溪仁会グループの安全の位置づけ

保健・医療・福祉サービスを提供する溪仁会グループにとって、「安全・安心」は組織のあらゆる局面を支える最も重要な基礎と位置づけています。患者さまやご利用者さまにとって、安全・安心な体制を確立することは当グループの義務であり、継続的な改善を図っていくことがサービスの質の向上や思いやりのあるホスピタリティ、持続性のある組織運営を実現するものと考えています。



医療安全管理室の活動—手稲溪仁会病院

溪仁会グループでは、安全・安心なケアを実現するために、各病院や施設において専門の委員会を立ち上げ、患者さまやご利用者さまが心から安心してケアを受けられる体制づくりに取り組んでいます。医療や福祉の質が社会的な関心を集めるなか、安全性を確保するためのシステムを強化してきました。

最先端の急性期総合医療に取り組む手稲溪仁会病院では、2007年10月、医師、看護師、薬剤師、事務スタッフからなる「医療安全管理室」を新設。各職種が連携して、院内での医療事故防止に携わる業務を担当しています。具体的な活動としては、職員から提出されるインシデント・

アクシデントレポート（事故にはつながらなかったもののヒヤリとしたケースや、医療事故などを報告するもの）の収集・分析、事故予防のための情報などを紹介する院内広報誌「SAFETY NEWS」の発行、医療安全職員研修会の実施など。また、院内で発生したインシデント・アクシデント事例について原因分析し、再発防止にも取り組んでいます。こうした活動に対する職員の関心は非常に高く、2008年2月に開催した第1回の医療安全職員研修会には、全職員の20%に相当する230名が参加しました。



子どもを守る取り組み

溪仁会グループは、子どもたちの安全を守るための活動に積極的に参加しています。

北海道が推進する「みんなで守ろう子どもたち『子どもの安全を守る運動』」は、子どもたちの安全確保を目的に、道内の各種施設や各種事業所等との連携による啓発活動を通して、大人の注意喚起を促すという活動です。下校途中の児童を標的とした悪質な事件が相次いでいることなどを受け、2006年より実施されました。溪仁会グループではこの取り組みに賛同し、啓発ポスターの掲示や事業用車両へのステッカー貼示などを行っています。また、事件や事故などを目撃した際の通報や被害者保護、不審者や不審物などを発見した際の通報といった、子どもの安全確保への協力体制を整えています。

安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、これからも溪仁会グループはさまざまな活動で地域社会をサポートします。



ステークホルダー・メッセージ

西円山病院ボランティアグループ
「銀の舟」代表

大野 良明 氏



西円山地区、町内会との活発な交流を期待したい

私たちは西円山病院の患者さまを対象にボランティア活動を行っています。グループの名前は、作曲家の中山晋平氏の詩に由来したもので、病院と患者さまをつなぐ存在として“銀の舟で金の世界に誘いたい”との思いを込めました。この思いを実践すべく、詩吟や手芸、生け花といった患者さまの趣味活動のお手伝い、院内にある喫茶室「ひまわり」の運営などを行っています。

「銀の舟」の発足から25年に及ぶ活動を続けてこれたのは、西円山病院の職員の方々のバックアップがあったからこそ。また、職員の患者さまへの対応を見てコミュニケーションの方法を勉強したり、2006年からは看護部の協力を得て介護研修にも取り組むようになりました。

私たちは院内で行われるイベントの運営も行っていますが、これからは西円山地区の方々、町内会の方々と直接的な交流を進めていければと考えています。病院行事に参加してもらうことで、相互のコミュニケーションが図られることを期待しています。

●「銀の舟」の発足は1985年。西円山病院が一般向けに行っていた介護教室の参加者がメンバーとなって活動が始まり、現在は110名が登録。大野さんは10年ほど前からボランティア活動に参加。ご自身が手稲溪仁会病院で手術を受けられるなど、溪仁会グループとさまざまな面で深く関わっている。



活動報告－②

医療人としてのスキルと マインドの追求

活動の基本となるサービス憲章

- 私たちは、日々研鑽に励み、
人格と知識の向上に努力します。
- 私たちは、職種を越えたチーム活動に
徹します。

※サービス憲章の全項目は12ページに掲載しています。



専門的な知識と技術で 新たな価値を創造するために

溪仁会グループは、事業理念の一つに『プロフェッショナル・マインドの追求』を掲げています。溪仁会グループが提供する保健・医療・福祉サービスの価値を支えているのは、職員一人ひとりのプロフェッショナル・マインドにほかなりません。良質な保健・医療・福祉サービスを提供するためには、すべての職員が豊かな人間性を涵養し、自信と自覚を持って仕事に臨むことが大切です。この考えのもと、職員と組織がお互いの成長をめざして取り組んでいる活動をご紹介します。

1

人格・知識の向上を図る育成制度

溪仁会グループでは、職員一人ひとりが個性を発揮し、
創造的な意欲を持って仕事に臨めるよう、多くの教育研修制度を取り入れています。
また、コンプライアンスを徹底することで組織としての信頼やサービスの質を高め、
職員の意識改革やスキルアップ向上へとつなげています。

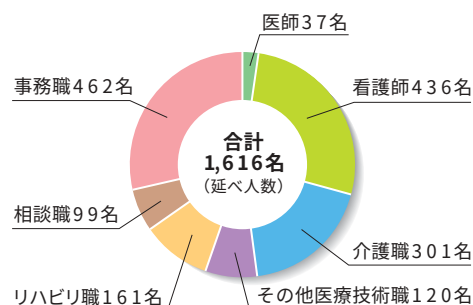
グループ職員研修会

溪仁会グループ本部では、職員を対象にした研修会を、
年間を通じて開催しています。2007年度の本部主催
研修会は35回開催し、延べで1,616名もの職員が参加
しました。

研修会の内容は、新人研修や役職者研修といった階
層別研修と時代ニーズに応じたテーマ別研修、年代別
のキャリアデザイン研修が主な柱です。こうした研修会は、
自己研鑽の機会としてだけでなく、職種や職場を越えた
職員同士の交流の場にもなっています。それぞれが所
属する病院や施設に対する理解を深め、多様な考え方
や視点の育成にも役立っています。



■2007年度溪仁会グループ研修会参加者:職種別内訳



■2007年度研修受講アンケートから

溪仁会グループ本部では、毎回研修会実施後に参加者へのアンケート調査を行い、寄せられた感想や意見などは、次の研修に生かすようにしています。
参加者の感想の一部をご紹介します。

VOICE ●2007年12月5日開催 中堅選抜者研修会

手稲溪仁会病院 臨床検査部
中島 洋平



自分が周りのスタッフの話を聞いているか?ということ
について、これまであまり意識して考えたことがなかった
ため、振り返りの良い機会になりました。今回学んだことを、
一つずつ実行していき、3年後には自分が大きく変わって
いるようになりたいです。また、より良い職場環境となっ
ているように努力します。

VOICE ●年代別キャリアデザイン研修会

西円山病院 看護部
鈴木 貴美子



「もう年だから」と考えていましたが、研修を通してこれ
までの人生を振り返ることで、子育てであったり仕事であ
ったり、自分を評価できるキャリアを見つけることができました。
人生に誇りを持って生きること、若いスタッフが私
の背中を見て仕事をしていけるようになれば、と考えてい
ます。

職種・部門別研修会

溪仁会グループ本部が主催する研修会とは別に、職種や部門ごとの合同研修会を実施しています。2007年9月に開催した管理栄養士合同研修会には、各施設から28名が参加。管理栄養士同士の意見交換を通して、グループ内の支援体制の確立と、活動レベルの向上や業務の品質向上を図りました。また、2008年2月に開催したリハビリ部門研修会には、手稲溪仁会病院、西円山病院、定山溪病院の3病院と、コミュニティホーム白石、コミュニティホーム美唄の2つの介護老人保健施設から、

合わせて100名ほどのリハビリ職員が参加しました。溪仁会グループ内の連携、経験や知識の共有などを目的としたもので、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種合同での症例検討会を中心に、病院や施設を越えた活動が行われました。

同じ職種や部門で働く職員同士が横断的に交流し、問題意識を共有することがいい刺激となり、プロフェッショナルマインドの向上にもつながっています。



接遇研修会－西円山病院

患者さまや利用者さま、そのご家族などとのコミュニケーションを潤滑にするために、職員のマナー向上を図る取り組みを継続的に行っています。溪仁会グループ内で、特に積極的な活動を行っているのが西円山病院です。

2004年に同病院の経営管理部内に「西円山病院接遇委員会」が設置され、院内だけでなく溪仁会グループ全体の接遇意識向上にも一役買ってきました。2007年にはその活動をさらに根付かせようと、院内各部署からの代表者による活動へと改組。現在は各部署および各部門からの代表者14名が中心となり、新人職員の接遇研修とそのフォローアップ、接遇マニュアルの配布やポスター掲示などを通じた啓発活動、グループ関連施設への出張講演などを行っています。2008年1月には院内の全職員を対象とした接遇研修会を実施。230名の

職員が参加し、「看護・介護における患者さま接遇のあり方」と題した講演に耳を傾けました。

これからも人権を尊重した温かな対応をめざし、グループ全体で接遇マナーの向上に取り組んでいきます。



2 職種を越えたかかわりの中で

溪仁会グループでは数多くの職種がそれぞれの専門分野で活躍しています。

優れた職能を持つ職員が専門的な知識と技術を持ち寄り、職種の垣根を越えて連携することで、多様な価値を持った新しいサービスの創出につながると考え、
溪仁会グループは多職種によるチーム活動を推進しています。

シーティングクリニック－定山溪病院

病院や施設の備品として普及している車いすは、利用する方々の体に合っていないことが多く、長期間使用するうちに褥瘡（床ずれ）などの二次障害を引き起こすことがあります。定山溪病院では、患者さま一人ひとりの体に合った車いすの製作や車いす用クッションによる適正な座位保持をすすめるシーティングクリニックを2001年から実施しています。

シーティングクリニックは、主治医、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなど院内の専門スタッフからなるチームに、患者さま、ご家族、車いす取り扱い元にもご参加いただいています。適切な座位姿勢をとることで、動作能力の改善や二次障害

の予防・防止を図ることが目的です。数ヶ月を要する車いすの製作には、各スタッフの専門的な知識が生かされます。また、さまざまなご要望に応えられるよう、スタッフの連携を強化するとともに、それぞれのスキルアップもめざしています。

適正なシーティングを行うことにより、一部の日常生活動作が可能になるなど、リハビリテーションの効果も上がっています。また、シーティング後の効果判定を実施しており、アフターケアの充実にも力を入れています。この経験を生かし、ベッドやいすなど、日常生活における座位保持にも対応できるよう、さらに取り組みをすすめる計画です。



ステークホルダー・メッセージ

溪仁会グループ本部主催研修会講師
株式会社アムリプラザ
専任講師
塚田 康祐 氏



人材育成の全体像を明らかにすることで ヒューマンスキルアップの実現を

溪仁会グループは体系的な研修会を積極的に行っている組織だと感じています。研修担当の職員は、事前に参加者のプロフィールを把握して綿密な進行計画を立てるなど、非常にきめ細かな配慮を行っており、研修を重視した人材育成に取り組んでいることがうかがわれます。職員研修は人と組織を育てる場ではありますが、最も重視すべきは自

分の働く場に誇りを持つこと、そういった組織風土を作ることにあると考えています。その点については、溪仁会グループとしての取り組みの本気度が伝わってきます。

一方、これから取り組んでいかなければならないのは、受講した職員がそこで得たモチベーションを日々の業務に生かせるようにすること、現場でのフォローの仕組みを作ることです。単発の研修参加で終わらせるのではなく、人材育成の流れや全体像を明らかに示していくことで、受講者が段階的な目標を持って研修に臨み、一層のヒューマンスキルアップが図られることを期待しています。

●全国の自治体、病院、企業における職員研修を多く担当。溪仁会グループでは、主に階層別研修会の講師を務める。グループワークやペアワークを取り入れ、参加者同士が活発に意見交換するスタイルでの研修を展開している。

活動報告－③

スキルアップと変革の追求

活動の基本となるサービス憲章

● 私たちは、常に技術の向上と革新に努めます。

※サービス憲章の全項目は12ページに掲載しています。



同じビジョンを共有するために

溪仁会グループの事業理念の一つに『変革の精神』があります。医療・福祉を取り巻く社会環境の変化は速く、医療技術やサービスの質も絶えず変動しています。職員一人ひとりが変革の精神を持ち、常にチャレンジし続けてこそ“良質な保健・医療・福祉サービスの提供”という社会的責任を遂行できると考えています。溪仁会グループは、職員と組織が共に変革の精神を持って邁進する組織風土づくりに取り組み、さらに質の高い保健・医療・福祉サービスの提供に努めています。

1

常に自己変革に取り組む組織へ

溪仁会グループは、職員すべてが溪仁会グループの一員としての自覚と誇りを持って仕事に臨めるよう、さまざまなサポートシステムを導入し、幅広く活用することで組織全体のボトムアップをめざしています。

医療バランスト・スコアカードの活用

バランスト・スコアカード（BSC）とは、1990年代のアメリカで発案された企業の業務評価システムです。企業がめざすビジョンと戦略を明確にし、それを達成するための具体的な行動を策定するマネジメント・ツールとして活用されています。

BSCは汎用性が高く、組織運営にも有効なことから、近年では医療にも応用されるようになりました。溪仁会グループは2007年から本格的にBSCを導入し、各病院・施設・部門・部署での運用を開始しています。

BSCによって戦略ストーリーをわかりやすく伝えることで、それぞれの職員が何をすれば業績に貢献できるのかを理解し、戦略の方向性を組織全体で共有できるため、職員一人ひとりが自分の仕事にやりがいと責任を持つことができます。また、患者さまのニーズや品質管理などを経営管理システムとして取り入れることが可能なので、より良い保健・医療・福祉サービスの提供にもつながります。

BSCを組織全体に浸透させるために、職員への教育・啓発活動にも取り組んでいます。各施設や職種ごとにBSC研修会を開催し、生きたシステムとしての活用をめざしています。BSCの手法を用いることで、これからも組織としての質の向上をすすめていきます。

VOICE

西円山病院看護部
看護師長 加賀谷 泰子（左）
看護師長 鈴木 真理子（右）



戦略の可視化によって職員の目的意識も向上

当院では病棟ごとにBSCを作成し、それぞれのアクションプランに基づいた活動を展開しています。従来も、目標管理は行ってきましたが、BSCを導入したことでめざすものが明確になり、具体的な行動計画が立てられるため、スタッフが目的意識を持って業務に臨めるようになりました。何より、業務改善や目標達成に継続性が生まれたことが大きな収穫だと考えています。（加賀谷）

BSCは2007年度から病棟管理に取り入れられました。現在はリーダー層を中心に教育し、組織全体への浸透を図っています。それまでは抽象的な表現だった目標が、スコアカードを使うことによって一目でわかり、病棟のビジョンをスタッフが共有できるようになってきました。これからはBSCを活用しながら、スタッフ個人のスキルアップなどにも取り組んでいくのが目標です。（鈴木）



第5回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会開催

2007年9月、溪仁会法人本部が主幹事となり、HBSC（日本医療バランスト・スコアカード研究学会）の第5回学術総会を開催しました。全国から270名の方が参加し、「組織力の強化を目指してトップダウンとボトムアップの融合-」をテーマに、医療におけるバランスト・スコアカードの事例紹介や取り組みの発表のほか、本グループの秋野豊明理事長の講演などが行われました。



活動報告－④

地域社会からの 信頼の追求

活動の基本となるサービス憲章

- 私たちは、地域社会の一員として
遵法を徹底します。
- 私たちは、サービス提供に関わる情報を
公開します。
- 私たちは、各機関との地域連携を重視し
地域に根ざすサービスを供給します。

※サービス憲章の全項目は12ページに掲載しています。



地域社会の未来を支えるために

溪仁会グループでは、『信頼の確立』という事業理念のもと、地域のみなさまの生活に貢献すると同時に、当グループの活動を理解していただき、信頼関係を築くための事業を広く行っています。地域のみなさまと共に手を取り合いながら、より良い保健・医療・福祉サービスを追求するために。地域ニーズに応えるきめ細やかなケアやサービスを実現することで、地域社会の未来を支えるために。地域のみなさまから愛され信頼される組織をめざした、溪仁会グループのさまざまな取り組みをご紹介します。

1

地域社会の一員として

溪仁会グループでは、地域社会から信頼され必要とされる存在であるために、組織全体でコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

法や倫理を守り、患者さまやご利用者さまに安心をお約束することも、地域社会の一員として果たすべき重要な責任と考えています。

コンプライアンスへの取り組み

溪仁会グループでは、コンプライアンスを「法令・倫理遵守」と規定しています。保健・医療・福祉に従事する者として、コンプライアンスの徹底は最も重視すべき社会的責任であると位置づけ、職員への教育・啓発活動に力を入れています。

コンプライアンスへの理解を促すために、2004年よ

り「コンプライアンスマニュアル」の全職員配布を実施。また、職員のための相談窓口である「コンプライアンス相談室」などを設置して、コンプライアンス体制の充実を図ってきました。こうした独自の取り組みによって、職員の間にはコンプライアンス意識が浸透し、日常の業務にも反映されるようになっていきます。



column

手稲溪仁会コンプライアンス講演会

2007年12月に、手稲溪仁会病院において『事例に学ぶ「安全・コンプライアンス」』と題した講演会を開催しました。40名ほどの職員がコンプライアンスマニュアルを持参し参加。医療現場で守るべき倫理について、改めて考える機会になりました。溪仁会グループの各病院・事業所では、コンプライアンスに関する勉強会や講習会などを開催し、職員の意識づくりを継続的に行っています。



プライバシーマーク（Pマーク）

2005年4月1日の「個人情報保護法」施行を前に、溪仁会グループでは個人情報を守る姿勢を明確に示そうと、2004年8月からプライバシーマーク（JISQ15001）の取得に取り組んできました。2006年6月の社会福祉法人南静会の取得を皮切りに、2007年8月には株式会社ソーシャルと株式会社ハーティワークス、同年9月には医療法人溪仁会がマークを付与認定されました。これによって、溪仁会グループの4法人すべてがプライバシーマークを取得し、個人情報の保護に対して適切な体制がと

られていることが認められました。個人情報保護の徹底は、患者さまやご利用者さまの権利を守り、信頼関係を築くために必要な取り組みと考え、これからも厳密な管理を行ってまいります。



医療法人溪仁会使用許諾マーク

2 積極的な情報公開

サービス提供にかかわる情報を積極的に公開しています。

適切かつ正確な情報公開は、病院や施設を選ぶ際の指標となります。

溪仁会グループの取り組みを地域のみなさまに知っていただき、

理解を深めていただくために、さまざまなツールを通じて情報開示に努めています。

介護保険サービス評価の公開

介護保険サービスを提供する事業者が厚生労働省の指定する基準を満たし、さらに高いサービス水準をめざすことを目的に、自己評価を行うのが介護保険サービス評価です。各都道府県によって、それぞれの地域に適した基準が設けられています。こうした自己評価は、サービスの質の改善を図るとともに、評価結果を公表することで、

ご利用者さまがサービスを選択する際の目安ともなります。

溪仁会グループの各事業所では、北海道基準に基づく自己評価を行い、ホームページ上などで公開しています。直近では、2008年1月に社会福祉法人南静会ケアセンターこころの評価結果を公表しました。

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com/keijuen/017/>
(PDFファイルでご覧いただけます)

広報誌サラネット

溪仁会グループと患者さまやご利用者さまといったステークホルダーの方々と結ぶツールとして、広報誌「サラネット」を隔月で発行しています。保健・医療・福祉に関するニュースや、溪仁会グループ各施設での取り組みの紹介のほか、健康づくりのための体操や食事のレシピといった親しみやすい内容を盛り込んでいます。また、読者アンケートで寄せられたご希望なども取り入れながら、多くのの方々に楽しんでいただける誌面づくりをめざしています。

現在、約4,000部を2カ月に1回発行し、溪仁会グループの各施設で設置配布しているほか、購読を希望される方には無料送付も行っています。また専用のホームページ(<http://www.salanet.com>)も開設して、広く情報発信に努めています。



VOICE

介護老人保健施設
コミュニティホーム八雲
経営管理課 安田 智昌



溪仁会グループホームページ

溪仁会グループのポータルサイト(<http://www.keijinkai.com>)では、医療法人溪仁会と社会福祉法人南静会、(株)ソーシャル、(株)ハーティワークスに関する情報を提供しています。溪仁会グループの事業理念や各施設の概要、活動トピックスなどをわかりやすくご紹介しています。また、各施設のホームページへのリンクもあり、それぞれの活動内容をリアルタイムでお伝えしています。



ご家族との交流ツールとしてタイムリーな情報更新を

当施設では、季節の行事や地域の方々との交流など、楽しい話題をホームページ上で随時ご紹介しています。多くの写真を使い、月に1~2回は更新することで、継続してご覧いただけるように工夫しています。当施設が毎月発行している「コミュニティ便り」でもホームページのURLを紹介しており、ご家族にも少しずつ浸透してきました。なかなか当施設に足を運べない遠方のご家族にも、「楽しく暮らしているな」と安心していただけるようなコミュニケーションツールにしたいと考えています。

コミュニティホーム八雲

検索

3 地域のみなさまとともに

浜仁会グループの活動の大きな柱は、地域と連携した地域密着型サービスの提供です。
 地域のみなさまの生活に貢献し、信頼の絆を深めることをめざし、
 広く関係機関との連携を図りながら、
 より質の高い保健・医療・福祉サービスの創出にも取り組んでいます。

手稲浜仁会病院地域連携福祉センター開設

手稲浜仁会病院では、かねてから地域との医療連携を強化してきました。医療連携とは各医療機関がそれぞれの役割をはっきりさせ、得意な分野を生かしつつ、連携して治療やケアにあたる医療体制のこと。患者さまは効率的かつ確かな診療が可能になり、各医療機関の機能も有効に活用できるシステムとして、活用が期待されています。急性期総合病院として地域の医療を担う手稲浜仁会病院では、2007年11月に地域連携福祉センターを開設。従来の医療連携への取り組みをさらに推進するための体制を整えました。

同センターは、これまであった「地域医療連携室」「医療相談室」「浜仁会琴似センター地域ケア情報支援室」を統合して誕生しました。保健・医療・福祉などの総合相談、周辺関係機関との連携促進と情報収集、適切な医療を提供するための患者さまの紹介業務などを担っています。スタッフは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務、ボランティアコーディネーターで構成されています。受診、検査、入院から転院、在宅ケアまで、一貫した医療サポー

ト体制の確立をめざしています。

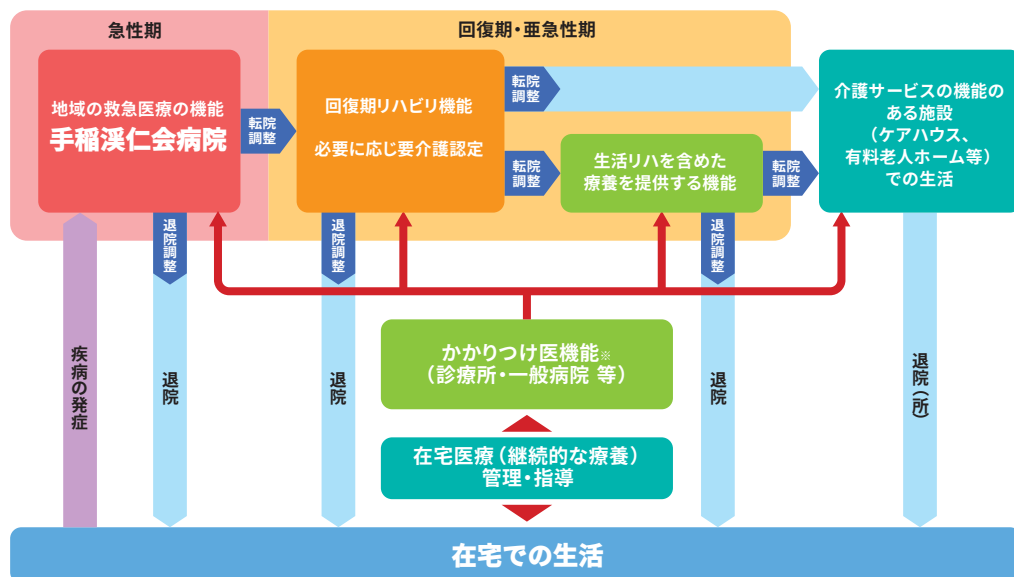
手稲周辺地域では、地域医療連携に大きな役割を果たす、地域連携クリティカルパス（31ページ参照）の運用が、手稲浜仁会病院を中心に始まっています。脳卒中の地域連携体制を例にすると、同センターは以下の役割を担当します。

- ①発症時のかかりつけ医と急性期病院との連携
- ②急性期治療後の在宅での生活のための退院支援
- ③急性期治療後の回復期リハビリ病院への転院支援
- ④在宅医療支援のためのかかりつけ医との連携

このシステムによって、それぞれの医療機関が役割を分担しながら、一貫した医療サポートを行うことが可能になります。今後は情報の収集と迅速な提供をさらに強化し、地域医療連携の核として医療の質の向上に取り組んでいきます。



■脳卒中の場合の医療連携体制のイメージ



※急性期、回復期、療養期等各機能を担う医療機関それぞれにかかりつけ医がいることも考えられますが、ここでは、身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師として、患者さまの病状に応じた適切な医療機関を紹介することをはじめ、常に患者さまの立場にたった重要な役割を担う医師をイメージしています。

ステークホルダー・メッセージ

医療法人社団伸孝会 ていね泌尿器科
理事長・院長 医学博士

鈴木 伸和 氏

1987年札幌医科大学医学部卒業。
1997年1月ていね泌尿器科開業。
地域医療を担うと同時に、札幌市医師会理事
政策部長として現代の医療が抱える問題解決
にも取り組まれています。



より充実した医療連携システムを構築することで、 適正かつスピーディな医療サービスの提供が可能になります

手稲溪仁会病院との医療連携を始めた当初は、顔見知りの先生方との個人的なネットワークによって急患や手術の受け入れなどを要請していました。現在は、同病院内に地域連携福祉センターが設立され、医療連携の流れがたいへんスムーズになったと感じています。何よりも驚かされるのは、その対応の早さ。当院から紹介状をFAXで送り、返事が戻ってくるまでの時間がどこよりも早く、スタッフの方のマンパワーによるものといつも感心させられます。札幌市の医療連携における理想的なモデルケースと言えるのではないのでしょうか。

欲を言うなら、手稲溪仁会病院には多くの診療科がありますが、そのトップの先生方と、もう少し交流を図りたい。その科の体制や医療方針を把握できていれば、確信を持って患

者さまに説明することができます。

手稲溪仁会病院のような急性期病院は、医師やスタッフの負担が大きくなります。医療連携では、かかりつけ医が初期医療を受け持つことで、適正な医療サービスの割り振りを行い、むだな受診に歯止めをかけることもめざしています。待ち時間や検査回数などを減らすこともでき、患者さまにとってもメリットがあります。

増大する医療費の抑制策として、患者さまが利用できる医療機関をあらかじめ決めてしまおう、という意見があります。現在のような自由選択の権利が阻害されるだけでなく、必要な医療サービスが受けられなくなる可能性も考えられます。そうした事態を防ぐためにも、各病院が役割を分担することで医療費の削減につなげよう、という医療連携が重要なのです。患者さまには適正かつ豊富な選択肢を、医療機関は特性が發揮できる体制を。医療連携の浸透によってそれらが実現できるものと考えています。



地域連携クリティカルパス普及への取り組み

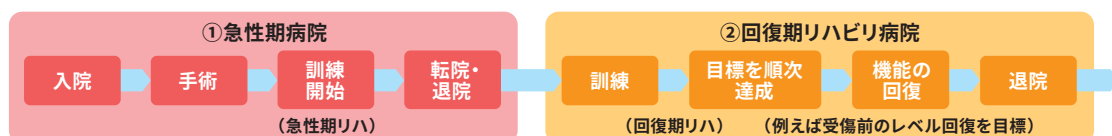
手稲溪仁会病院では地域医療連携を推進するにあたり、地域連携クリティカルパスの実用化に取り組んできました。地域連携クリティカルパスとは、入院から回復、在宅までのケア全体を示した診療計画のことで、関係機関で患者さまの情報を共有するために用います。北海道ではまだ実施地域が少なく、手稲周辺地域では「大腿骨頸部骨折連携パス」「脳卒中連携パス」が運用されています。

地域連携クリティカルパスによって診療計画を可視化し、治療が終わるまでの方針をわかりやすく示すことで、

転院後の診療がスムーズになり、患者さまは的確な治療を受けることができます。また、治療が現在の段階にあるのかといった情報を、患者さまやご家族と共有することで、安心して治療に臨んでいただけます。

現在は、提携医療機関とのネットワークを広げているところです。地域全体の医療資源を活用して、みなさまの健康を守ると同時に、高度化する設備投資など医療機関の負担軽減にもつながる取り組みとして期待されています。

■急性期病院と回復期リハビリ病院との地域連携クリティカルパスイメージ



中学生の病院体験学習－定山溪病院

溪仁会グループの各病院では、医療や介護への理解を深めてもらうために、近隣の学校との交流事業を行っています。定山溪病院では定山溪中学校とのふれあい交流を長年続けており、病院関連職業体験の受け入れは2000年から始まりました。2007年12月に行われた体験学習には、1年生から3年生まで21名が参加しました。

体験の内容は、1年生が喫茶スペースでのボランティア活動と院内見学、2年生が食事介助などの病棟体験、3年生がリハビリテーション訓練体験などで、職員が講

師となって指導を行いました。入院患者さまにとって、中学生はちょうどお孫さんにあたる年代のため、病室やリハビリ室を訪れた生徒さんをうれしそうに迎える姿が見られました。また、緊張気味だった生徒さんたちも次第にうちとけ、笑顔が見られるようになりました。

定山溪病院以外の病院でも、小学生との交流会や高校生を対象にした看護体験などを実施しています。これからも地域とのふれあいを大切に、子どもたちの思いやりを育む活動に取り組んでいきます。



ステークホルダー・メッセージ

札幌市立定山溪中学校
校長
小林 美知子 氏



生徒たちの心に響く生きた学習を期待して

本校と定山溪病院の交流は、すでに10年ほどになります。「定山溪病院祭」では、患者さんに喜んでもらえるよう選曲の工夫をしたり、「文化祭」では患者さんのお迎えやお世話の補助など、学習として取り組むようになりました。各学年が発達段階に合わせて実施する職業体験学習では、生徒たちは生きることの重みや心をふれあうこととは、福祉とは

を体験の中から学び、心に響く生きた学習となっています。これも、病院職員の皆さんより、事前学習や当日の丁寧な指導の結果と感謝しています。

これからの時代、少子高齢社会に必要とされるのは、自立と共生の意識です。住民1,500余名という本地域において、本校生徒は幼少から地域の皆さまの愛情を一身に受けてきたという、他の地域にはない特色があります。こういった中、さまざまな状況から、定山溪病院での学習は、また生涯学習の視点からも価値の高い教育活動が展開できると期待しております。

●札幌市立定山溪中学校では、2004年度より、教育課程「総合的な学習の時間」の中で、福祉と病院に関わる職業についての学習を開始。また、これ以前より、定山溪病院の患者さんを文化祭に招待するなどの交流を図ってきている。

ゆとりある 職場環境の追求

活動の基本となるサービス憲章

● 私たちは、お互いを尊重し、ゆとりある職場環境を追求します。

※サービス憲章の全項目は12ページに掲載しています。



喜びのある人生の実現に向けて

溪仁会グループが擁する病院・施設は60を超え、職員数は3,400名にも上ります。

当グループでは、より豊かな保健・医療・福祉サービスの実現のためには、その提供者である職員が最も重要なステークホルダーである位置づけ、職員のゆとりと豊かさ、安心して働くことのできる職場環境の実現、拡充に取り組んでいます。職員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を重視した取り組み、職員の子育て環境の改善をめざした活動をご紹介します。

1

生きがいを持って働ける職場環境づくり

職員は溪仁会グループの活動を支える、最も重要なステークホルダーです。
一人ひとりが働くことに生きがいとやりがいを感じ、充実した人生を送ることができるように、
溪仁会グループでは職員の個性と人権を尊重し、
誰もが安心して働くことのできる職場環境づくりを進めています。

男性の育児参加促進事業への取り組み－南静会

社会福祉法人南静会では、2007年7月、厚生労働省所管の財団法人21世紀職業財団北海道事務所より「男性の育児参加促進事業実施事業主」の指定を受け、男性職員の育児参加について、積極的なサポートを始めました。

少子高齢化社会を迎えた現代において、ライフスタイルの多様化や共働き世帯の増加といった社会情勢の変

化をふまえた、子育て環境の改善が急務となっています。南静会では職場全体で男性の育児参加を積極的に支援し、仕事と子育てを両立できる職場環境づくりを推進しています。職員のワーク・ライフ・バランスを大切にし、少子化対策と男女共生社会の実現に貢献する取り組みとして、組織への浸透を図っています。

職場への子ども参観－菊水こまちの郷

2007年7月、社会福祉法人南静会が運営する地域密着型介護老人福祉施設菊水こまちの郷において、職員の子ども6名を招いて子ども参観日を実施しました。これは、仕事と家庭の両立が可能な職場づくりや、次世代を担う子どもたちの健やかな育成をめざす取り組みの一つで、厚生労働省の次世代育成支援対策推進法にも基づく、南静会初の試みでした。

参加した子どもたちは施設内をめぐりながら、初めて見るお父さん、お母さんの働く姿を真剣に見つめていました。また、職員も子どもたちの職場見学が働く励みになった様子でした。これからもこうした活動によって親子のコミュニケーションを深め、仕事と家庭の両立や仕事への意欲向上などを支援していく考えです。



ピッコロ保育園開設－西円山病院

西円山病院では、職員の子育て支援と働きやすい職場づくりの取り組みとして、2007年秋に、病院建物内に設置していた院内保育所を移転。病院東側に「西円山ピッコロ保育園」を新築しました。内部には幼児用と乳児用の保育室2室、遊戯室があり、子どもたちがのびのびと遊べるスペースが確保されています。今回の新築では、「子どもからお年寄りまで心やすらぐ建物」であることをめざ

し、外壁のデザインには、公立大学法人札幌市立大学デザイン学部の学生さんにご協力をいただきました。



活動報告－⑥

環境保全への 取り組み

活動の基本となるサービス憲章

● 私たちは、環境を保護するためにあらゆる配慮を尽くします。

※サービス憲章の全項目は12ページに掲載しています。



溪仁会グループ環境方針

保健・医療・福祉サービスを提供する複合事業体である溪仁会グループは、環境問題への取り組みを企業の社会的責任と認識し、保健・医療・福祉サービスの質の向上を図りながら、より良い地球環境の保全に貢献するよう以下の方針を定めます。

1	環境関連の法律、規則、条例、溪仁会グループ外の組織と交わした環境上の約束、及び溪仁会グループが自ら定めた管理基準を遵守します。
2	保健・医療・福祉サービスを提供する過程において、環境に影響を与えてしまう業務や使用材料を調査し、環境への悪影響を最小限に抑える、または改善させるための取り組みを継続して実行していきます。
3	● 溪仁会グループが特に重要と考える項目は以下のとおりです。 ① 医療廃棄物の適正管理 ④ 環境にやさしい製品の購入やリサイクル活動の推進 ② 各種資源やエネルギー使用量の管理 ⑤ ステークホルダーと連携した環境活動の実践 ③ 大気や水質を汚染する物質の排出抑制 この環境方針は溪仁会グループ全職員に周知徹底し、全職員で地球環境の保全に取り組んでいきます。
4	この環境方針と、方針達成に向けての取り組みは、溪仁会グループのご利用者さま、地域の皆さまをはじめとする、内外の関係先に広く公表します。

1

溪仁会グループの環境活動

環境保全に向けた活動は重要なテーマの一つです。

溪仁会グループでは、2004年に環境マネジメントシステム (ISO14001) への登録申請を行い、環境問題に取り組んできました。

各施設においても、職員および地域社会の環境意識向上をめざし、独自の環境保全活動を展開しています。

ISO14001 (JISQ14001)

溪仁会グループでは、環境問題への取り組みを重要な社会的責任ととらえ、地球環境保全に向けた活動を推進しています。環境マネジメントシステムであるISO14001に対し、2004年に溪仁会グループ全体で登録申請を行いました。同マネジメントシステムの規格に基づき、継続的に計画・実施・監査・見直しを行うとともに、

各組織・施設での浸透をめざして、内部監査員の養成にも力を入れています。



環境活動事例紹介

溪仁会グループの各施設では、環境保全を目的としたさまざまな活動に取り組んでいます。継続している事例を含め、具体的な活動内容をご紹介します。

雪冷房システムの採用ーコミュニティホーム美唄

冬期間に積もった雪を倉庫に貯蔵し、夏季の冷房システムに活用することによって、冷房に要する消費電力を抑え、経費節減にも役立っています。

感染性廃棄物のリサイクル

ー手稲溪仁会医療センター・西円山病院・定山溪病院

収集運搬・中間処理業者と委託契約を結び、排出される感染性廃棄物を重油 (ビニールハウスの暖房燃料に利用) 又は炭にリサイクルしています。

植物廃油のバイオディーゼルリサイクル

グループ各施設では、厨房等で使用した植物性廃油を、再生業者に回収を依頼し、バイオディーゼル燃料にリサイクルしています。また、西円山病院、コミュニティホーム美唄の一部の車両ではその燃料を使用し、二酸化炭素排出量を削減しています。

生ゴミの堆肥化事業に参加ー定山溪病院

厨房から排出している生ゴミを堆肥としてリサイクルし、地元での野菜栽培に活用。収穫した野菜は市民イベントで販売され、地域住民の方々の関心を集めています。

節水コマの導入ーグループ各施設

節水対策として、水道の蛇口に節水コマを取り付けて使用量削減を図っています。

ミスト浴の導入ー西円山病院・定山溪病院

入浴設備を一部ミスト浴に変更することで、節水を推進しています。

エネルギー資源の転換

ー手稲溪仁会医療センター・溪仁会円山クリニック

重油より二酸化炭素排出係数が低い天然ガスへ設備更新し、環境負荷を軽減しています。

間伐材コピー用紙の使用ーグループ各施設

グループ全体で北海道産間伐材から作られたコピー用紙を導入し、地域の森林活性化に貢献しています。

ミックスペーパーリサイクルー西円山病院・定山溪病院

廃棄していた使用済みコピー用紙や感熱紙、封筒等を古紙資源として活用し、紙製品 (トイレトペーパー等) にリサイクルしています。

事務用品のエコ商品購入を推進ーグループ各施設

エコマーク等の環境に配慮された事務用品を優先的に購入することを推奨。独自のカタログを策定して購入しています。

グループ職員によるビーチ清掃活動ーグループ各施設

2008年6月に、海開き前のおたるドリームビーチで清掃活動を実施しました。グループ全体から職員とその家族115名が参加し、1.2kmほどの海岸を約2時間かけて清掃。地域貢献だけでなく、環境意識の啓発にも役立ちました。



リングプル再生ネットワークへの登録ーグループ各施設

空き缶のプルタブを収集し車イスに交換する活動を、2008年3月より各施設で実施しています。職員をはじめ、患者さまやご利用者さま、そのご家族や地域の皆さまにご協力いただいています。



2 溪仁会グループの環境パフォーマンス

溪仁会グループの各施設では、地球環境に対して負荷が生じるとされる項目において、それぞれ「環境パフォーマンス」を集積し、自分たちの活動内容の評価を行っています。環境に配慮した業務の見直しと改善、さらに環境負荷の低減を目標に掲げ、グループ全体で地球環境の保全に努めています。

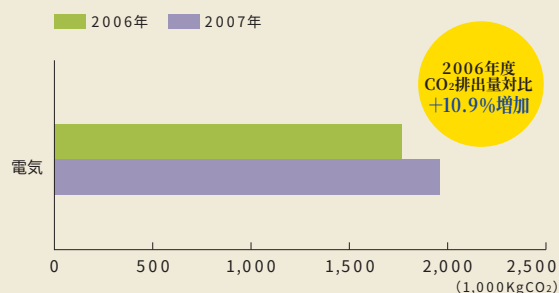
年度別環境管理データ比較

溪仁会が取り組むさまざまな環境活動において、その成果の指針となっているのが、資源の利用に対してどれくらいの環境負荷があるのかを集積し、CO₂換算によって数値で示した「環境パフォーマンス」です。主に、化石燃料使用量（ガソリン・重油・ガス等）、電気使用量、コピ

一用紙購入量などに大別した資源の使用量を、毎月各施設ごとに集計し、活動結果の評価と今後の方針策定に役立てています。ここでは、2006年度と2007年度における、溪仁会グループの主要な環境パフォーマンスを対比し、それぞれの特徴や対応策などについてご紹介します。

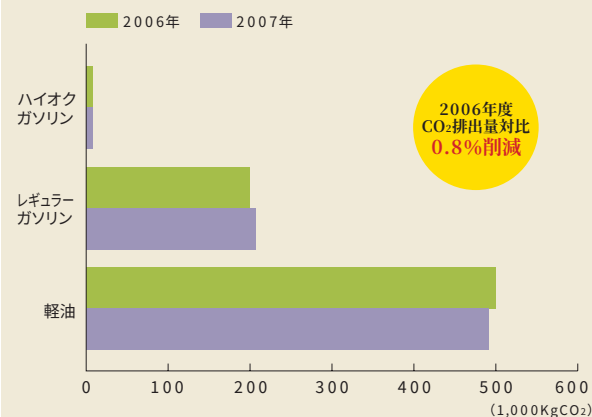
■電気（CO₂換算）

電気の使用から発生するCO₂排出量は10.9%の増加が見られました。要因は、①夏季の猛暑によるエアコン使用の増加、②温冷配膳車の導入による増加（西門山病院）、③新棟建設による増加（定山溪病院・手稲溪仁会病院）が考えられます。ただし、前年同期よりも電気使用量が減少した施設等もあり、より具体的な取り組みを検討しています。



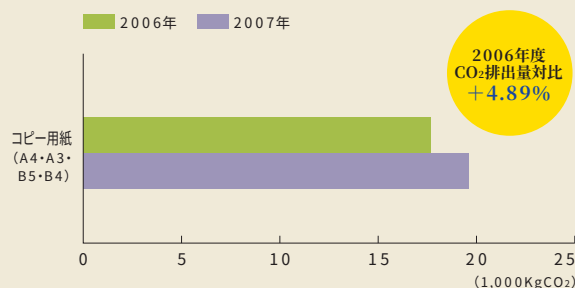
■車両燃料（CO₂換算）

車両燃料については、エコドライブによる低燃費走行の実施や車両台数の微減により、CO₂排出量を前年比で0.8%削減しました。



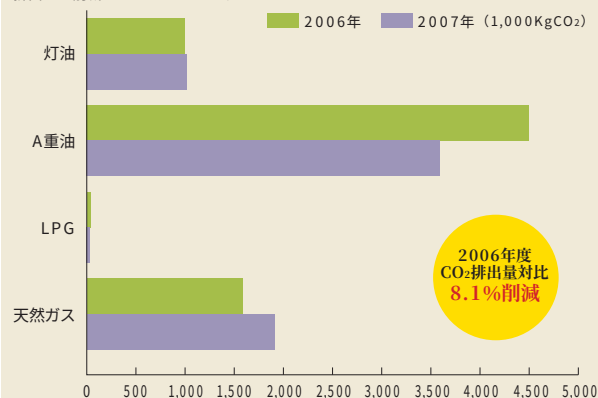
■コピー用紙（CO₂換算）

業務の効率化や両面印刷による削減効果上げた施設もありましたが、業務拡張などの要因により全体で4.89%の増加となっています。さらなる業務の見直しを行い、使用量削減に対する意識の浸透を図っていく必要があります。



■建物設備維持燃料（CO₂換算）

2005年より手稲溪仁会医療センター、2006年度より溪仁会円山クリニックにおいて、重油から天然ガス（都市ガス）への転換を進めてきました。2007年度は、両施設において完全転換を実現。その結果、CO₂換算係数の高いA重油使用量が減り、グループ全体のCO₂排出量の削減にもつながりました。



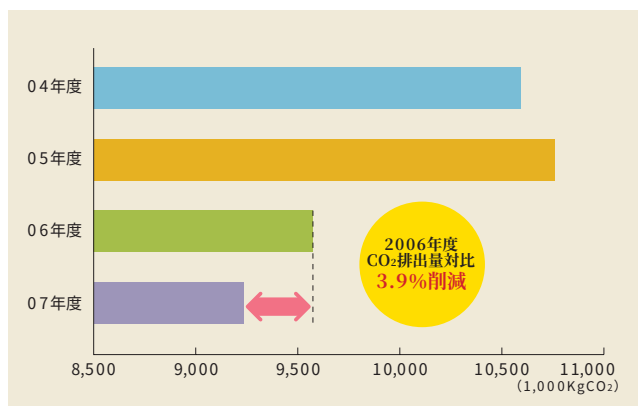
■その他

CO₂排出量に直接的には影響しない活動（マイカップ持参によるゴミ削減等）への取り組みが顕著になっています。環境活動を継続して行ってきたことで、各施設・組織においても積極的に意識啓発に取り組み様子が見られるようになりました。今後も情報の収集や発信を継続するとともに、全組織的な取り組みを推進していく必要があると考えています。

二酸化炭素排出量の推移

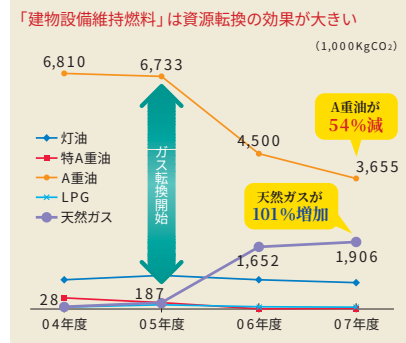
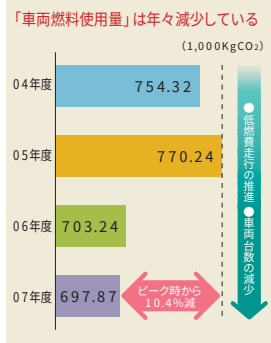
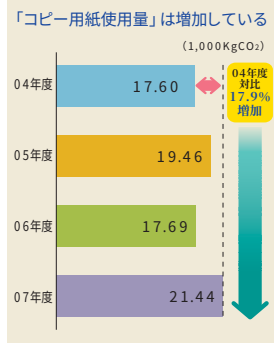
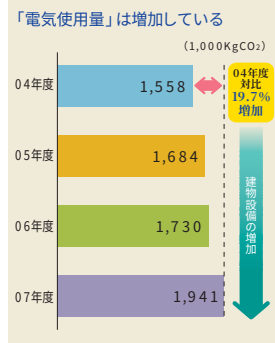
■年度別CO₂排出量総括

前年度との比較では、手稲溪仁会医療センターと溪仁会円山クリニックにおける天然ガスへの完全転換の効果が大きく、グループ全体でCO₂排出量を3.9%削減することができました。経年変化については、2003年度より始めた環境活動が浸透し、確実にその成果が上がっています。しかし、大型の省エネ設備投資等が容易ではないことなどから、今後はここ数年のような環境パフォーマンス改善が難しいと予想されます。今後は「〇%削減」という目標から、「前年度維持」といった維持管理にシフトするとともに、職員の環境意識の把握・検証等、可能な目標設定・検証を行っていくことも必要と考えています。



項目別二酸化炭素排出量の推移

溪仁会グループでは2003年度から環境活動を具体化させ、ISO14001への審査登録を行った2004年度よりCO₂換算値の経年変化をデータとして蓄積してきました。新施設の開設などもあり、毎年同条件とはいえませんが、明らかに成果の上がった項目もあります。2004年度から2007年度までの環境パフォーマンスの推移をご紹介します。



ステークホルダー・メッセージ

溪仁会法人本部 財務部
購買施設課
木村 直子



さらなる意識啓発をめざし、目に見える環境活動を

溪仁会グループでは、業務内での環境活動を発展させ、地域貢献にも役立てようと、2008年6月7日、小樽市の「おたるドリームビーチ」において、清掃活動を実施しました。

当グループでは、環境保全への取り組みを強化しており、

職員間でも「何か環境のためになることをしよう」という意識が高まっていました。今回の清掃活動には職員やその家族など115名が参加。2時間ほどの清掃でしたが、収集したゴミは3トンにも及び、あまりの量に驚いたのと同時に、そうした現実を目の当たりにして、環境への意識づくりを広く訴えていく必要性を実感しました。

私はもともと環境問題に関心があり、また購買施設課という業務からも強く環境活動を意識していました。職員としても、また一個人としても、こうした地域社会での活動というのは、大きな意義があると感じています。これからもこのような活動を続けていきたいと思っています。

溪仁会グループ施設概要

溪仁会グループでは、保健・医療・福祉全般にわたり、病院・地域のみなさまに貢献するための活動を展開しています。みなさまに信頼され、愛される施設づくりを推進し、ニーズにお応えするサービス体制を築くとともに、マネジメントの徹底を図り、より安定的にご利用いただける組織運営をこれからも進めていきます。

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院



手稲溪仁会病院は、JR手稲駅に隣接する547床の急性期病院です。併設する手稲溪仁会クリニックとあわせて「手稲溪仁会医療センター」と称しています。2007年春には救命救急センター棟が完成し、より高度で専門的な医療の提供が求められています。また、かねてよりドクターヘリ基地病院として広く道民の期待を担っており、今後も地域のみなさまのニーズに応え、スピーディに適切な診療を受けられる医療の仕組みづくりに取り組んでまいります。これからも、手稲溪仁会病院では医療体制の充実を図り、地域の基幹病院としての責務を果たしていきたいと考えています。

DATA

■稼働病床数 … 547床

内 救命救急センター	19床
ICU	12床
SCU	6床

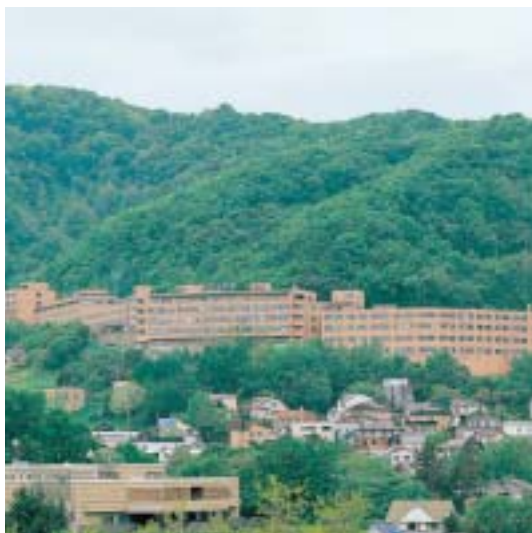
■診療科目

内科・精神保健科・呼吸器科・消化器科・循環器科・リウマチ科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科/頭頸部外科・放射線科・麻酔科・血液内科・腎臓内科・歯科・小児歯科・歯科口腔外科

■主な特徴

救命救急センター
厚生労働省救急医療対策事業
ドクターヘリ導入促進事業実施主体(基地病院)
臨床研修指定病院
ISO9001/14001認証(審査登録)
日本医療機能評価機構認定病院(一般病院)
プライバシーマーク認定
DPC対象病院 など

医療法人溪仁会 西円山病院



1979年に溪仁会グループの最初の病院として開設しました。介護療養病棟と回復期リハビリテーション病棟、神経内科を中心とした医療療養病棟などを設けています。また、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)や軽費老人ホームが隣接しているほか、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなどの在宅ケアも推進しています。医療と介護を総合的に提供できる環境を整え、患者さまや利用者さま、そしてご家族のみなさまに、安心してご利用いただけるサービスを提供しています。

DATA

■稼働病床数 … 875床

内 介護療養型医療施設	310床
療養病棟入院基本料	307床
障害者施設等13対1入院基本料	169床
回復期リハビリテーション病棟2	89床

■診療科目

内科・神経内科・リハビリテーション科・循環器科・歯科

■主な特徴

ISO9001/14001認証(審査登録)
日本医療機能評価機構認定病院
プライバシーマーク認定
通所リハビリテーション・
訪問リハビリテーション併設 など

医療法人溪仁会 定山溪病院



1999年に財団法人日本医療機能評価機構・長期療養種別で第1号の認定を受けました。続いて2001年にはISO9001の認証(審査登録)を行うなど、積極的に第三者評価を活用して、組織活動の改善を図っています。2006年度は新病棟と新厨房が完成し、さらに充実した療養環境が整いました。また、「身体拘束廃止」、「高齢者の終末医療」、「褥瘡(床ずれ)の予防と治療」など、患者さまのQOLを大切にした医療サービスの実現に取り組んでいます。

DATA

■稼働病床数 … 386床

内 医療療養病棟	292床
特殊疾患病棟1(一般病床)	94床

■診療科目

内科・神経内科・リハビリテーション科・
歯科

■主な特徴

ISO9001/14001認証(審査登録)
日本医療機能評価機構認定病院
プライバシーマーク認定
通所リハビリテーション・
介護予防センター併設 など

医療法人溪仁会 溪仁会円山クリニック



溪仁会円山クリニックでは、病気の早期発見や健康管理、予防事業などに取り組んでいます。人間ドックや企業健診、巡回健診、札幌市民健診などのほか、生活習慣改善教室を開催し、いつまでも健康な暮らしを続けることができるように、みなさまの生活に関するアドバイスやサポートを行っています。

DATA

■健診事業(施設健診・巡回健診)

健康診断(人間ドック・健康診断・政府
管掌健康保険生活習慣病予防検診・特
定健診)、オプション検査(CT・胃内視鏡・
ビロリ菌・乳がん・腫瘍マーカー・内臓
脂肪・脳ドック ほか)、保健相談・指導、
栄養相談・指導、保険診療(生活習慣病
予防外来・再検査) など

■主な特徴

ISO9001/14001認証(審査登録)
プライバシーマーク認定 など

ISO9001/14001認証(審査登録)
プライバシーマーク認定
特定施設入居者生活介護指定

社会福祉法人南静会 コミュニティホーム白石



コミュニティホーム白石は、1989年に開設されました。白石区の中心部にあり、地域と連携したさまざまな介護・福祉サービスを提供しています。また、在宅支援サービスも充実しており、ショートステイセンターや指定居宅介護支援事業所、デイサービスセンターなどを併設。2006年には札幌市白石区第1地域包括支援センターが設置されるなど、白石区における高齢者福祉の拠点として、地域のみなさまの生活をサポートしています。

DATA

■定員

施設サービス	100名(短期入所療養介護含む)
通所リハビリテーション	50名

■主な特徴

ISO9001/14001認証(審査登録)
 プライバシーマーク認定
 通所介護
 ショートステイセンター
 グループホーム
 札幌市白石区第1地域包括支援センター
 介護予防センター
 指定居宅介護支援事業所
 訪問看護ステーション
 ホームヘルパーステーション併設 など

社会福祉法人南静会 コミュニティホーム八雲



コミュニティホーム八雲は、高齢の方が、住み慣れた地域で社会生活を楽しみながら、自分らしく生活できるようにお手伝いするための施設です。溪仁会グループでは初めての地方における介護老人保健施設として、1998年に開設されました。地域に根ざした介護拠点として、みなさまに信頼されるサービスの提供をめざし、さまざまな支援事業を展開しています。また、2007年4月より介護予防事業(介護予防通所リハビリテーション・介護予防短期入所療養介護)を実施しております。

DATA

■定員

施設サービス	90名(短期入所療養介護含む)
通所リハビリテーション	40名

■主な特徴

ISO9001/14001認証(審査登録)
 プライバシーマーク認定
 指定居宅介護支援事業所併設 など

社会福祉法人南静会 コミュニティホーム美唄



コミュニティホーム美唄は、美唄市とその近郊にお住まいの方を対象とした介護老人保健施設として、2000年に開設されました。寝たきりや介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で生活しながら家庭生活への復帰をめざせるように、さまざまな介護・福祉サービスを提供しています。また、開設当初から雪氷冷熱エネルギーを利用した「雪冷房システム」を採用して、地球環境に配慮した施設運営も行っています。

DATA

■ 定員

施設サービス	80名(短期入所療養介護含む)
通所リハビリテーション	50名

■ 主な特徴

ISO9001/14001認証(審査登録)
プライバシーマーク認定

社会福祉法人南静会 コミュニティホーム岩内



コミュニティホーム岩内は2007年4月に開設された、新しい介護老人保健施設です。自宅から移り住まれる入居者さま一人ひとりの生活を大切にすることをめざし、全室個室、10床を1ユニットとしたユニットケアを導入。通所リハビリテーションとあわせて、地域のみなさまが安心して暮らしていくための施設づくりをすすめています。また、岩内町とその周辺を中心とした後志地区の介護拠点としての機能も担っています。

DATA

■ 定員

施設サービス	100名(短期入所療養介護含む)
通所リハビリテーション	40名

■ 主な特徴

プライバシーマーク認定
岩内町地域包括支援センター

溪仁会グループでは、地域にお住まいの方が健康的に安心して暮らすことができるよう、保健と福祉分野が連携した在宅サービスを提供しています。現在は地域に根ざした7つのセンターが、デイサービスやショートステイといったサービスを提供し、ご利用者さまとご家族が少しでも快適な在宅生活を続けられるように支援を行っています。

医療法人溪仁会 豊平ハーティケアセンター



DATA

■定員

通所介護 70名(一般型)

■主な特徴

ISO9001/14001認証
(審査登録)
プライバシーマーク認定

医療法人溪仁会 手稲溪仁会ハーティケアセンター



DATA

■定員

通所介護 60名(一般型)

■主な特徴

通所介護でISO9001/14001
認証(審査登録)
プライバシーマーク認定
指定居宅介護支援事業所、
介護予防センター併設 など

医療法人溪仁会 新琴似ハーティケアセンター



DATA

■定員

通所介護 60名(一般型)

■主な特徴

ISO9001/14001認証
(審査登録)
プライバシーマーク認定

医療法人溪仁会 おおしまハーティケアセンター



DATA

■定員

通所介護 30名(一般型)

■主な特徴

ISO9001認証(審査登録)
プライバシーマーク認定
指定居宅介護支援事業所・在宅
介護支援センター・ホームヘルプ
ステーション・訪問看護ステーション・
ショートステイセンター併設 など

社会福祉法人南静会 青葉ハーティケアセンター



DATA

■定員

通所介護 一般型 45名
認知症型 12名

■主な特徴

ISO9001/14001認証
(審査登録)
プライバシーマーク認定
指定居宅介護支援事業所・ヘル
パーステーション・訪問看護ス
テーション併設 など

医療法人溪仁会 円山ハーティケアセンター



DATA

■定員

通所介護 65名(一般型)

■主な特徴

ISO9001/14001認証
(審査登録)
プライバシーマーク認定

社会福祉法人南静会 美唄市東地区生活支援センターすまいる



DATA

■定員

通所介護 30名(一般型)

■主な特徴

ISO9001/14001認証
(審査登録)
プライバシーマーク認定
指定居宅介護支援事業所・ホーム
ヘルパーステーション併設 など

溪仁会グループ施設一覧

法人本部

医療法人溪仁会 法人本部

札幌市中央区北3条西28丁目2-1サンビル6F
☎ 011-641-9970

社会福祉法人南静会 法人本部

札幌市中央区北3条西28丁目2-1サンビル5F
☎ 011-640-6767

保健

健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。

総合健診施設 溪仁会円山クリニック

札幌市中央区大通西26丁目3-16
☎ 011-611-7766

治療とケア

最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、365日・24時間体制であらゆる疾患・外傷の患者さまを受け入れています。

総合医療 手稲溪仁会病院

札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
☎ 011-681-8111

手稲溪仁会クリニック

札幌市手稲区前田1条12丁目2-15
☎ 011-685-3888

療養とケア

長期療養が必要な方に、看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

療養病床 西円山病院

札幌市中央区円山西町4丁目7-25
☎ 011-642-4121

療養病床 定山溪病院

札幌市南区定山溪温泉西3丁目7-1
☎ 011-598-3323

介護

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

日常生活に常時介護が必要で、自宅では介護が困難なお年寄りが入所し、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や健康管理が受けられます。

西円山敬樹園

札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎ 011-631-1021

地域密着型介護老人福祉施設

定員29名以下の小規模な介護老人福祉施設で、介護・看護・機能訓練等のサービスを提供するとともに地域や家庭との結びつきを重視した施設です。

菊水こまちの郷

札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
☎ 011-811-8110

介護老人保健施設

病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に、できる限り住み慣れた家庭や地域で、生活を営むことができるよう、保健・医療・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。

コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通3丁目南20-1
☎ 011-864-5321

コミュニティホーム八雲

二海郡八雲町栄町13-1
☎ 0137-65-2000

コミュニティホーム美唄

美唄市東5条南7丁目5-1
☎ 0126-66-2001

コミュニティホーム岩内

岩内郡岩内町字野東69-26
☎ 0135-62-3800

軽費老人ホーム(ケアハウス)

食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理及び相談助言を基本サービスとして自立維持できる施設です。

カームヒル西円山

札幌市中央区円山西町4丁目3-21
☎ 011-640-5500

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。

グループホーム 白石の郷

札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
☎ 011-864-5861

グループホーム 西円山の丘

札幌市中央区円山西町4丁目3-21
☎ 011-640-2200

短期入所生活介護(ショートステイ)

事情により介護ができないときに、短期間入所し、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をさせていただきます。

西円山敬樹園ショートステイセンター

札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎ 011-631-1021

おおしまショートステイセンター

宮城県気仙沼市廻館55-2
☎ 0226-26-2272

小規模生活単位型指定短期入所生活介護(ショートステイ)

全室個室のユニットケアで家庭的な環境のなか、手軽にご利用いただき、ご家庭に帰るまでの間、健康で・楽しく・明るく過ごしていただけます。

コミュニティホーム白石 ショートステイセンター

札幌市白石区本郷通3丁目南19-1
☎ 011-864-5321

社会復帰 生活支援

介護予防 在宅支援

地域包括支援センター

高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。

札幌市白石区 第1地域包括支援センター

札幌市白石区本郷通3丁目南20-1
☎011-864-4614

岩内町地域包括支援センター

岩内郡岩内町字野東69-26
☎0135-61-4567

介護予防センター

高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。

札幌市中央区 介護予防センター円山

札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎011-633-6056

札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西

札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎011-633-6055

札幌市白石区 介護予防センター白石中央

札幌市白石区本郷通3丁目南20-1
☎011-864-5535

札幌市南区 介護予防センター定山溪

札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
☎011-598-3311

札幌市手稲区 介護予防センターまえだ

札幌市手稲区前田1条12丁目2-8
☎011-685-3141

在宅介護支援センター

家庭で介護を必要とされるお年寄りなどやそのご家族の方に対し、在宅介護に関する総合的なご相談に応じます。

宮城県気仙沼市 在宅介護支援センターおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2
☎0226-26-2272

通所介護（デイサービス）

要支援1・2、要介護1～5と認定された40才以上の方を対象に、入浴・食事の提供・健康状態の確認等、機能訓練・レクリエーションなどのサービスを提供します。

手稲溪仁会デイサービス

札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
☎011-685-2568

新琴似溪仁会デイサービス

札幌市北区新琴似12条7丁目1-45
☎011-763-5500

円山溪仁会デイサービス

札幌市中央区大通西26丁目3-16
☎011-632-5500

豊平溪仁会デイサービス

札幌市豊平区美園9条5丁目4-21
☎011-831-5000

西円山敬樹園デイサービスセンター

札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎011-640-5522

生活支援 通所介護

生活支援 通所介護

デイサービスセンター白石の郷

札幌市白石区本郷通3丁目南19-1
☎011-864-3100

あおばデイサービスセンター

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎011-893-5000

デイサービスセンターすまいる

美唄市東4条南5丁目1-4
☎0126-66-2525

デイサービスセンターおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2
☎0226-26-2272

小規模多機能型居宅介護

「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを組み合わせて、365日24時間住み慣れた地域での生活維持を目的とする地域密着型サービスを提供します。

小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷

札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
☎011-811-8110

指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員（ケアマネジャー）が、介護が必要になった方に、介護保険サービス利用の申請手続きや、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成などをはじめとした介護保険に関する様々な相談に応じています。

溪仁会在宅ケアセンター

札幌市手稲区前田1条12丁目2-8
☎011-685-2322

西円山病院在宅ケアセンター

札幌市中央区円山西町4丁目7-25
☎011-642-5000

定山溪病院在宅ケアセンター

札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
☎011-598-5500

指定居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通3丁目南20-1
☎011-864-2252

指定居宅介護支援事業所 西円山敬樹園

札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎011-644-7650

指定居宅介護支援事業所あおば

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎011-893-8761

指定居宅介護支援事業所すまいる

美唄市東4条南5丁目1-4
☎0126-66-2525

指定居宅介護支援事業所やくも

北海道八雲町栄町13-1
☎0137-65-2121

おおしまハーティケアセンター

宮城県気仙沼市廻館55-2
☎0226-26-2272

指定居宅介護支援事業所 ケアプランセンターこころ

札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
☎011-632-0605

在宅支援 生活支援

訪問看護ステーション

病気や障がいがあっても、住み慣れたご家庭で安心して生活が送れるよう、看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。

訪問看護ステーション円山

札幌市中央区北1条西2丁目3-11
☎ 011-644-1030

はまなす訪問看護ステーション

札幌市手稲区前田1条12丁目2-8
☎ 011-684-0118

訪問看護ステーション本郷

札幌市白石区本郷通3丁目南20-1
☎ 011-864-2006

訪問看護ステーションあおば

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎ 011-893-5500

溪仁会琴似訪問看護ステーション

札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
☎ 011-632-0313

訪問看護ステーションおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2
☎ 0226-26-2270

訪問介護（ホームヘルパーステーション）

ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。

西円山敬樹園ホームヘルパーステーション

札幌市中央区円山西町4丁目3-21
☎ 011-644-6110

コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション

札幌市白石区本郷通3丁目南20-1
☎ 011-864-2008

ホームヘルパーステーションすまいる

美唄市東4条南5丁目1-4
☎ 0126-66-2525

ヘルパーステーションあおば

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎ 011-893-5600

ホームヘルパーステーションおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2
☎ 0226-26-2272

ソーシャルヘルパーサービス

札幌市西区山の手1条12丁目6-1
☎ 011-612-1000

ケアセンターこころ

札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
☎ 011-632-0605

福祉用具

福祉用具のレンタル・販売、施設用備品・ユニフォーム、リハビリ・健康関連機器、車いすのオーダーメイド製作・出張修理、日常生活用具・住宅改修事業、別途関連品の取り扱い全般

株式会社 ハーティワークス

札幌市白石区流通センター7丁目1-40
☎ 011-895-8010

溪仁会グループの歩み

1979年 6月	西円山病院 開院
1981年 5月	定山溪病院 開院
1982年 4月	西円山敬樹園 開所
1987年12月	手稲溪仁会病院 開院
1989年 4月	コミュニティホーム白石 開所
1990年 1月	溪仁会円山クリニック 開設
1993年 1月	はまなす訪問看護ステーション 開設
1994年10月	西円山敬樹園ホームヘルパーステーション 事業開始
1995年 7月	訪問看護ステーション円山 開設
10月	コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション 事業開始
1996年 4月	カームヒル西円山 開所
	西円山敬樹園デイサービスセンター 開設
5月	訪問看護ステーション本郷 開設
1997年 4月	株式会社ハーティサポート 設立 (2005年2月 ハーティワークスに社名変更)
1998年 4月	コミュニティホーム八雲 開所
6月	株式会社ソーシャル 設立
1999年 4月	デイサービスセンターすまいる 開設
	ホームヘルパーステーションすまいる 事業開始
5月	訪問看護ステーションおおしま 開設
12月	あおばデイサービスセンター 開設
2000年 1月	円山溪仁会デイサービスセンター 開設
4月	コミュニティホーム美唄 開所
	居宅介護支援事業所西円山敬樹園 事業開始
	居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石 事業開始
	居宅介護支援事業所やくも 事業開始
	居宅介護支援事業所すまいる 事業開始
5月	手稲溪仁会クリニック 開院
7月	居宅介護支援事業所あおば 事業開始
9月	デイサービスセンターおおしま 開設
10月	グループホーム白石の郷 開所
11月	デイサービスセンター白石の郷 開設
2002年 4月	手稲溪仁会デイサービス 開設
7月	グループホーム西円山の丘 開所
8月	豊平溪仁会デイサービス 開設
	新琴似溪仁会デイサービス 開設

2003年 4月	溪仁会訪問リハビリテーションセンター 開設
	訪問看護ステーションあおば 開設
2004年 9月	コミュニティホーム白石ショートステイセンター 開所
2005年 3月	手稲溪仁会病院 新型救命救急センター 設置許可
4月	ヘルパーステーションあおば 事業開始
7月	訪問看護ステーションさくら 開設
8月	おおしまハーティケアセンター リニューアルオープン
10月	在宅ケア事業本部 設置 (2007年4月 在宅ケア事業部に名称変更)
2006年 1月	保健事業部 設置
4月	札幌市手稲区介護予防センターまえた 事業開始
	札幌市南区介護予防センター定山溪 事業開始
	札幌市白石区第1地域包括支援センター 事業開始
	札幌市中央区介護予防センター円山 事業開始
	札幌市中央区介護予防センター曙・幌西 事業開始
	札幌市白石区介護予防センター白石中央 事業開始
6月	社会福祉法人南静会がプライバシーマーク取得
12月	溪仁会グループCSRレポート2006発行
2007年 4月	溪仁会琴似訪問看護ステーション 開所
	ケアセンターこころ 開所
	コミュニティホーム岩内 開所
5月	手稲溪仁会病院 救命救急センター棟 オープン
7月	地域密着型介護老人福祉施設 菊水こまちの郷 開所
	小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷 開設
	株式会社ソーシャル、株式会社ハーティワークスが プライバシーマーク取得
9月	医療法人溪仁会がプライバシーマーク取得
11月	溪仁会グループCSRレポート2007発行
2008年 4月	岩内町地域包括支援センター 委託事業開始
	ケアプランセンターこころ 開設
7月	指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ 事業開始

マネジメントシステムの導入

溪仁会グループでは、1998年より各種マネジメントシステムを導入し、第三者評価を得、体制や提供サービスの継続的向上を図っています。

病院機能評価
<1998年～>

品質マネジメント
(ISO9001)
<1999年～>

環境マネジメント
(ISO14001)
<2003年～>

情報セキュリティ
(JISQ15001=Pマーク)
<2005年～>

バランス・スコアカード
(BSC)
<2006年～>

医療提供体制の
向上

サービス提供の
品質を継続的に
改善

環境保全活動を
実施し継続的に
改善

個人情報の
保護を徹底

経営のバランスを
可視化

第三者意見



国立大学法人 小樽商科大学
商学部教授

伊藤 一

2006年から発刊した溪仁会グループCSRレポートは3年目を迎えた。まずは医療・福祉事業におけるCSR経営の確立をめざし、果敢にCSR経営に取り組む貴法人について敬意を表したい。秋野理事長の主張するCSR経営とは、収益性でなく公益性を重視した経営に帰着する。それは、地域住民への持続可能な医療・福祉サービスの提供であり、質の高い医療・福祉サービスの実現である。

本レポートでは、各施設の際立った医療経営活動を紹介している。CSR経営を実現するために、南静会では、福祉施設が不足しサービスの空洞化を生じている地域の求めに応じ、介護施設を開設し医療におけるCSR活動を支えている。また、急性期医療施設である手稲溪仁会病院では、従来から運営している高度救命救急医療を実現するドクターヘリの運航とともに、地域連携福祉センターを開設し、急性期疾患後の回復期リハビリテーションへの医療提供を、スムーズに実施できる組織を立ち上げた。これを支える地域連携クリティカルパスを札幌市内中心に実施し、貴院の得意分野を活かした、シームレスな医療サービスの精緻化を実現している状況が詳しく記述されている。院内では、TQMの実践、さらにISOの内部監査員制度の確立などで、業務改善に資する体制が構築されている。さらに、定山溪病院では全国レベルで評価されている慢性期病院の終末期医療や、西円山病院での、EBMに応じた医療サービスの提案における患者満足度の確保など、高品質で意欲的な診療体制が分かりやすく示されている。

さらに職員アンケート調査で示されたように、医療・福祉業務への“やりがい”や“充実感”を満たし、医療職としての職業人意識の充実、つまり職種・職務への帰属意識の高さを示している。秋野理事長の提唱する医療職業人としての意識の高さの証左でもある。国の医療費削減から、職員の給与水準への不満を抱えつつ、貴法人がこれだけ高い職務充実感を持たせ、それなりの職員満足度を維持している背景には何があるのだろうか。それは希薄になりがちな組織への帰属意識を高めるための法人本部が企画した各種研修活動、予算に連動させた実効あるBSC活動、ISO認証などの業務改善活動を通じた医療スタッフ間コミュニケーションの充実によるものと評価できる。

さらにまた、医療の成果に関しては、昨年も提案したが、成果の客観的尺度であるCI(クリティカルインデックス)を導入し、CSR経営の客観的評価を明示することで、日本の医療を先導するリーディングホスピタルに近づけていただきたい。

最後に貴グループが独立した大学研究者に対して第三者意見を求めたことに関して改めて敬意を表したい。

(今回の第三者意見の提出にあたっては、貴法人本部へのヒアリング、札幌で開催された医療BSC学会の取材を基に作成した。)

編集にあたって

溪仁会グループでは、従来発行しておりました「年次報告書」を改め、2006年度から「CSRレポート」という形式で、当グループの取り組みをわかりやすくお伝えする試みを始めました。2008年度版は、ステークホルダーのみなさまをより強く意識し、当グループへの理解や信頼を深めていただくためのコミュニケーションツールとして発展させております。

『溪仁会グループCSRレポート2008』は、以下の点に配慮して作成しております。

理解容易性への配慮

溪仁会グループが果たすべきCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を明らかにし、その実現に向けた取り組みを報告しております。ステークホルダーのみなさまに、当グループの社会面・環境面・経済面を中心にしたCSR活動をご理解いただけるよう、専門用語等をなるべく使用せず、わかりやすく表現するように留意いたしました。また、レイアウトや配色、使用書体や文字の大きさなど、幅広い年代の方にお読みいただけるよう工夫しております。

網羅性と重要性への配慮

記述内容は、環境省発行の「環境報告ガイドライン(2007年度版)」、GRI[※]が発行する「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」、経済産業省の「ステークホルダー重視による環境報告レポーティングガイドライン2001」などを参考に、厳正に選定いたしました。また、特に社会的な関心が高いと思われる重要な取り組みについては、特集としてより深くお伝えしております。

※GRIとはGlobal Reporting Initiativeの略。持続可能性報告書の国際的なガイドラインの策定を目的に、1997年に設立された。同組織の発行する「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」は、多くの企業の指針となっている。

信頼性への配慮

CSR分野に詳しい有識者の方々からいただいたご意見やアドバイスをもとに、公正な視点から情報公開をしております。第三者意見としては、昨年に引き続き小樽商科大学商学部教授の伊藤一氏に所見を依頼いたしました。また、当グループのWebサイト上でも、同内容の情報を公開しております。

溪仁会グループ

検索

CSRレポート掲載URL <http://www.keijinkai.com/nenjihoukoku>

編集後記

ステークホルダーのみなさまと溪仁会グループを繋ぐ絆となることを願って発行しているこの『溪仁会グループCSRレポート』も、今号の発行で第3号となりました。今回は、私たちがみなさまと接する際に共通の理念として大切にしている4つ「事業理念」を章立てした構成としております。これは私たちの理念と日々の活動がどのように相関しているのかをわかりやすく知っていただくとともに、私たち自らが理念を再確認し、普段の活動にフィードバックしてより良いサービス提供に繋げていくことを目的としました。

昨今、企業・組織の“偽”や“隠”が連日マスコミを賑わせ、社会の一員としてその責任をまとうことが強く求められています。CSRの大原則は言行一致。その点でこのCSRレポートの担う責任は年を追うごとに重くなってきていると感じます。

今後もこのレポートを通して、当グループの一年間の活動を正しく報告させていただく場として、また、みなさまと対話し、貴重なご意見、時にはお叱りの言葉をおうかがいする機会として十分に活用させていただき、良好な関係を築いていく礎にしていきたいと考えております。

最後に、当レポートの主旨にご賛同いただき取材をご快諾いただいたステークホルダーの方々、編集・発行にあたりご尽力をいただいた多くの職員に心より感謝を申し上げます。

(村上)

<編集事務局>

医療法人溪仁会 法人本部 経営企画室

<発行年月>

2008年10月発行

「溪仁会グループ年次報告書」は、
溪仁会グループホームページをご覧ください。

溪仁会グループ年次報告書

検索

【報告対象範囲】

2007年度(2007年4月～2008年3月)における活動を中心にしていますが、補足的に2006年度以前や2008年度の情報も記載しています。環境パフォーマンスデータの対象範囲については、溪仁会グループの中から環境保全上の重要度に応じて決めています。なおEMS(環境マネジメントシステム)の対象となる事業所数は、国内11サイトとなります。

【次回発行予定】

次回は、2009年10月の発行を予定しております。

【発行責任部署および連絡先】

医療法人溪仁会 法人本部

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2番1号 サンビル6F

TEL 011-641-9970(代) FAX 011-641-9951

E-mail: editor0110@keijinkai.or.jp

ずーっと。



私たち溪仁会グループの仕事は、
あなたの病気を治すことだけでなく、
年齢に応じた健康維持のアドバイスをしたり、
介護を含めた老後の安心のお手伝いをすることでもあります。
心身ともに輝いて生きるために。
生涯にわたって溪仁会グループは、ずっとあなたのそばに。

iK 溪仁会グループ

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2番1号 サンビル6F
TEL 011-641-9970 (代) FAX 011-641-9951

溪仁会グループホームページ

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com>

ご意見・ご感想をお寄せください。

Q 1 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- ☐医療・福祉関係 ☐企業・団体のCSR担当 ☐NGO・NPO ☐研究・教育関係 ☐行政 ☐報道
☐会社員 ☐学生 ☐患者さま ☐ご利用者さま ☐ご家族さま ☐その他（ ）

Q 2 本報告書全体の印象をお聞かせください。

- ☐とても読みやすい ☐読みやすい ☐どちらとも言えない ☐読みにくい ☐とても読みにくい

Q 3 本報告書を通じて、溪仁会グループのCSRへの取り組みについて理解できましたか？

- ☐よく理解できた ☐理解できた ☐普通 ☐理解しにくい ☐まったく理解できない

Q 4 本報告書の中で、関心があった項目はどれですか？（複数回答可）

- ☐トップコミットメント「溪仁会グループの未来への指針。」
☐特集・活動ハイライト
 ☐1 手稲溪仁会病院小児NICUセンター開設 ☐2 介護老人保健施設コミュニティホーム岩内開設
 ☐3 溪仁会円山クリニックの取り組み ☐4 ISO内部監査活動の取り組み
☐マネジメント体制
☐活動報告
 活動報告－1 ☐最高の満足をお約束するために ☐最高のサービス品質をめざして
 ☐人権と倫理を守るために ☐ステークホルダーメッセージ
 活動報告－2 ☐人格・知識の向上を図る育成制度 ☐職種を越えたかかわりの中で
 ☐ステークホルダーメッセージ
 活動報告－3 ☐常に自己変革に取り組む組織へ
 活動報告－4 ☐地域社会の一員として ☐積極的な情報公開
 ☐地域のみなさまとともに ☐ステークホルダーメッセージ
 活動報告－5 ☐生きがいを持って働ける職場環境づくり
 活動報告－6 ☐溪仁会グループの環境活動 ☐溪仁会グループの環境パフォーマンス
 ☐ステークホルダーメッセージ
☐施設概要 ☐施設一覧 ☐溪仁会グループの歩み ☐マネジメントシステムの導入 ☐第三者意見 ☐編集後記

Q 5 次回発行の際、改善・追加したほうが良い点があればお聞かせください。

Q 6 溪仁会グループのCSRへの取り組みについての評価をお聞かせください。

- ☐非常に評価できる ☐評価できる ☐普通 ☐評価できない ☐まったく評価できない

Q 7 溪仁会グループに期待すること、またはご意見、ご感想などがありましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。差し支えの無い範囲でご記入ください。

性別：☐男性 ☐女性 年齢：☐10代以下 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60代以上

ご回答いただいた内容は、本報告書改善のための情報として利用し、目的以外の用途には使用いたしません。
また、本調査で知り得たご回答内容を含む情報は当グループ内で厳重に管理いたします。

医療法人溪仁会 法人本部 経営企画室宛

FAX 011-641-6874 / E-MAIL editor0110@kejinkai.or.jp

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2番1号 サンビル6F